

KORG

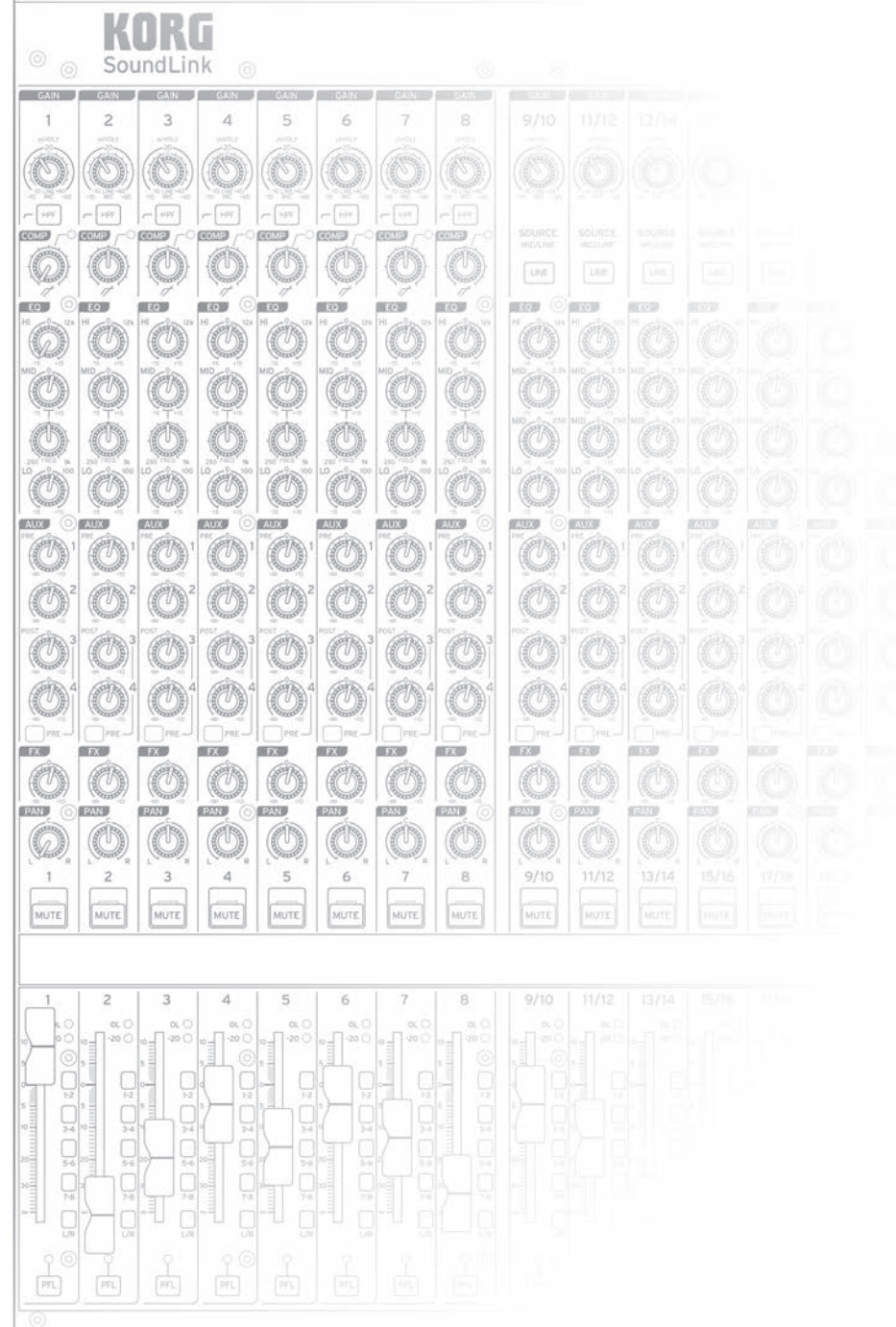
SoundLink

MW-2408

MW-1608

HYBRID ANALOG/DIGITAL MIXER

取扱説明書





安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。

誤った取扱いをした場合に生じる危険とその程度を、次の区分で説明しています。

 警告	誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容を示しています。
 注意	誤った取扱いをすると、人が軽傷を負う可能性がある内容を示しています。
注記	誤った取扱いをすると、製品の故障、誤動作や物的損害が発生する可能性がある内容を示しています。

本文中や本体に使われている図記号の意味は、次のとおりです

次の記号は、注意（警告を含む）を促す内容があることをお知らせするものです。



一般的注意



感電注意

次の記号は、禁止の行為であることをお知らせするものです。



禁止



分解禁止



水まわりなどでの
使用禁止



水ぬれ禁止



ぬれ手禁止

次の記号は、行為を強制したり指示することをお知らせするものです。



指示



電源プラグを抜く



アースを取り付ける

警告

電源コード、電源プラグ、コンセント



- 電源コードを傷つけない。
電源コードを無理に曲げたり、傷つけたりしないでください。またストーブなどの熱器具に近づけたり、電源コードの上に重いものを載せないでください。電源コードが破損すると感電、火災の原因になります。
電源コードが破損したときは、コルグお客様相談窓口へ修理をご依頼ください。



- 電源は必ず交流 100V を使用する。
誤って接続すると、感電、火災、故障の原因になります。



- 付属の電源コード以外は使用しない。また、付属の電源コードは他の製品に使用しない。
故障、発熱、火災などの原因になります。



- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。
ほこりを放置したまましていると火災の原因になります。



- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。



- 電源プラグや電源コードが破損していたりコンセントの差し込みがゆるい場合は使用しない。
感電、火災の原因になります。電源プラグや電源コードに破損を見つけたら、コルグお客様相談窓口にて修理を依頼してください。



- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ず電源プラグを持って引き抜く。
電源コードを引っ張って破損すると、感電や火災の原因になります。



- 長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いておく。
電源をオフにしても、製品は電源から完全には切断されていません。電源コードを接続したまま長時間放置すると、感電、火災、故障の原因になります。



- 雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない。
感電するおそれがあります。



- アース（接地）を必ず取り付ける。
アースを取り付けていないと故障などで漏電したときに感電するおそれがあります。
コンセントにアース端子がない場合は、必ず販売店または最寄の電気工事店にご相談ください。

設置、接続、保管



- 極端に高温、低温になる場所に置かない。
直射日光が長時間当たる場所や暖房機器の近くなど極端に高温になる場所に置くと動作が不安定になったり、熱でパネルが変形したり、火災を引き起こしたりするおそれがあります。また、氷点下の屋外など極端に低温になる場所に置くと動作が不安定になるおそれがあります。



- ほこりの多い場所に本製品を置かない。
火災や故障の原因になります。



- 湿気が多い場所や、水滴がかかる場所に置かない。
浴室、シャワー室、雨天の野外などに設置、保管しないでください。本体内部に水が入ると、感電、火災、故障の原因になります。



- 本製品とほかの機器を接続するときは、必ずすべての機器の電源を切る。
不注意な操作を行うと感電やスピーカーシステムなどの破損、誤動作の原因になります。



- 本製品を移動するときは、必ず電源コードなどすべての接続ケーブルを外す。
ケーブルで周囲の人が転倒したり、周囲の機器が落下して感電、故障の原因になります。

分解禁止



- 本製品の内部を開けたり、分解や改造したりしない。
感電、火災、けが、または故障の原因になります。
内部の点検や修理はコルグお客様相談窓口にご相談ください。



- 修理や部品の交換などをお客様自身で行わない。
感電、火災、けが、故障の原因になります。取扱説明書に書かれていないことは絶対にしないでください。修理や部品の交換については必ずコルグお客様相談窓口にお問い合わせください。

水濡れ注意



- 本製品の上や近くに液体の入ったもの（コップや花瓶など）を置かない。
本体内部に水が入ると、感電、火災、故障の原因になります。
内部に水が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜き、コルグお客様相談窓口にご依頼ください。

火気に注意



- 本製品の上や近くにろうそくなど火気のあるものを置かない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常や破損に気付いたら



- 異常が生じたときは、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
 - 製品から異音や異臭、煙が出たとき
 - 製品の内部に異物が入ったとき
 - 使用中に音が出なくなったとき
 そのまま使用し続けると、感電や火災、または故障の原因になります。コルグお客様相談窓口にご依頼ください。



- 本製品を落下させるなどで破損した場合は、破損箇所には触れずにすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。
そのまま使用を続けると感電、火災、故障の原因になります。コルグお客様相談窓口にご依頼ください。






大音量に注意





- 大音量や不快な程度の音量で長時間ヘッドフォンやスピーカーを使用しない。
大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

⚠ 注意



設置、接続、保管

-  ● 不安定な場所や振動する場所に本製品を置かない。
本製品が落下や転倒すると、お客様のけがや本製品の破損につながるおそれがあります。
-  ● 通気を妨げるような場所に置かない。
壁に密着させたり、もので覆ったりしないでください。
通気が妨げられると内部温度が上昇して、故障や火災の原因になります。
-  ● 温度変化が激しい場所（窓際など）に置かない。
本製品の内部に結露が発生して故障の原因になります。
-  ● 電源プラグは、容易に手が届く位置のコンセントに接続する。
異常時にすぐに電源プラグが抜けないと、事故や火災につながるおそれがあります。
-  ● 地震などによる落下防止の処置をする。
市販の耐震パッドなどで対策してください。
本製品が落下するとけがや破損の原因になります。

取り扱い

-  ● 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。
本製品が落下して、けがや故障の原因になります。
-  ● 本製品のすき間に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や指などを入れない。
けがや感電、火災、故障の原因になります。

大音量に注意

-  ● 電源をオン/オフする前に、必ず本製品や接続している機器の音量を最小にする。
大きな音が出て、聴力障害や故障などの原因になります。
-  ● パワーアンプ（パワードスピーカーを含む）をつないで使用するときは、パワーアンプの電源を最後に入れる。また電源を切る時は、最初にパワーアンプの電源を切る。
大音量が出力されると聴力障害や機器の故障などの原因になります。

お手入れ



- お手入れするときは、電源プラグをコンセントから抜く。
電源コードが接続されたままだと、感電につながるおそれがあります。

注記

設置、接続、保管



- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して設置する。
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。

取り扱い



- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。
故障の原因になります。



- 本製品の上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。
パネルが変色/変質する原因になります。



- 製品の移動や急な冷暖房などにより周囲の温度が極端に変化したときは、数時間放置してから電源を入れる。
温度変化により結露が発生しているおそれがあります。すぐに電源を入れると故障の原因になります。

使用中



- イコライザーやフェーダーをすべて最大には設定しない。
接続した機器によっては、発振したりスピーカーを破損したりする原因になることがあります。

お手入れ

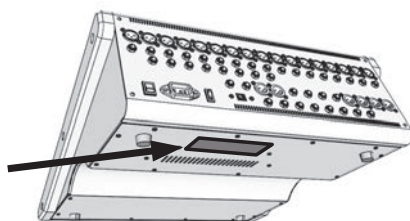


- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。
変色/変質の原因になります。外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭いてください。



- フェーダーやコントロールにオイルやグリスなどを適用しない。
電気接点の接触やフェーダーの動きが悪くなる場合があります。

本製品は、IEC62368-1の安全規格に準拠します。
安全表示のラベルは本体底面にあります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

※ すべての製品名および会社名は、各社の商標または登録商標です。

はじめに

このたびは KORG SoundLink ハイブリッド アナログ デジタル ミキサー MW シリーズをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品の機能を十分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくため、ご使用前に本書をよくお読みください。

また、お読みになったあとも大切に保管してください。

本書の表記について

- 製品の仕様および外観は予告なく変更することがあります。
- 本書で使用しているイラストの形状や表示が、実際の製品と一部異なる場合があります。
- 本書で使用されている記号



NOTE

性能や機能を正しく活用できなくなる可能性のある事項について、注意すべき内容の説明が記載されています。



HINT

知っておくと役に立つ補足情報が記載されています。

- モデルに関連する記載について
 - 本書では、MW-2408 と MW-1608 を総称して「MW」と表記することがあります。
 - 本書の製品イラストは、特にことわりがない限り MW-2408 の図を掲載しています。
 - MW-2408 と MW-1608 で仕様が異なる場合、MW-1608 のみの仕様は { } で囲って表記します。(例 :CH9/10 ~ 23/24 { ~ 15/16})

iPhone™, iPad™

iPhone, iPad は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

| Greg Mackie からの言葉

私は、40年以上にわたってミキサーを設計してきました。そして数年前にはコンパクトなオールデジタルミキサーの制作にも携わりました。タレントショー、飛び入り方式のショー、一晩で3バンドのクラブでの演奏など、しばらくの間、私自身もこのミキサーを使用していました。とにかくフィードバックに神経をすり減らし、初めてミックスを担当するグループの演奏中、フィードバックは頻発し、そんな中マイクは雑に扱われ、ボーカリストの声は小さく、とあるアクトでは3つのマイク、次は16個のマイクを、ええと、フィードバックについては言いましたっけ？

そのような経験を経て、オールデジタルのインターフェースでは、変更や修正を素早く行うことができない事に気付きました。メニューやスクロールが多すぎる！しかし一方で、デジタルのイコライゼーション、エフェクト、そしてプリセットは非常に魅力的でした。

SoundLinkは私とPeter Watts、KORGの3者が共に作り上げたハイブリッドソリューションです。ライブミキシングで必ず起こる緊急事態に対しては、アナログ特有の即座のコントロールを可能にし、ここぞという時には高品質なデジタルの力が発揮されるのです。



| M&WによるSoundLinkの特徴紹介

ユニークなハイブリッドデザイン。「ハイブリッド」と主張する多くのミキサーは単にデジタルエフェクトを搭載しただけに過ぎません。SoundLinkは、完全なアナログ-デジタル-アナログ信号経路はアナログの分かり易さと、シーンメモリー、パラグラフィックEQ、10個同時エフェクト等を含むデジタル特有のメリットを提供する真正正銘の「ハイブリッドミキサー」です。

80年代の伝統的なTridentレコーディングスタジオコンソールをデザインした1人である**Peter Wattsによるクラシックアナログサウンド。**マイクプリアンプ、コンプレッサー、およびチャンネルEQは、デジタル特有の耳障りな特徴を排除して、リッチで自然な音を作り上げます。

Greg Mackie 監修の使い易いデザインとスマートな機能は、予測不可能なライブパフォーマンスにおいて、初心者であっても簡単なミキシングを可能にします。さらに、Breakスイッチのような実用的で便利なスイッチ類、1/8インチのフロントパネル入力ジャック、アクティブスピーカーやモニターにすばやく接続するためのXLR出力、24バンドスペクトラムアナライザーなど豊富な機能を兼ね備えています。

グループ出力を備えた8バス構成。SoundLinkは、よく見られる2本または4本ではなく、8本もの独立した出力バスを備えているためレコーディングやライブミキシングに最適です。DAWに8つのインターフェースチャンネルを接続したり、ライブサウンド用にさまざまな出力の組み合わせを試してみてください。

Peter Wattsがデザインしたマイクプリアンプ（モノラルおよびステレオチャンネル）は16.5Vもの余裕のある内部電圧で駆動され、同等価格のアナログまたはデジタルミキサーと比較しても大きなヘッドルームを備えています。そして、このマイクプリアンプの自然な暖かさを、ボーカリストは必ず気に入ることでしょう。

最高のアジャスタブルフィードバックコントロール。他製品にありがちな不安定な挙動は無く、即座にフィードバックを除去します。信じてください！

ボタンひとつで複数の入力チャンネルのON/OFFをを切り替える**ミュートグループ機能**は、このクラスでは初のものとなります。ステージ上のミュージシャン、サウンドチェック、他の楽器が演奏を止めてからのソロアコースティックナンバー、ドラムソロ、教会の礼拝のさまざまなパート（聖歌隊、プレイズバンド、牧師）、または演劇中の合図等、様々な設定を保存できます。

1ノブ操作のレコーディングコンソール品質のコンプレッサー。コンプレッサーはより良いボーカルとドラムサウンドを作るために欠かせませんが、その非常に複雑な設定を使いこなせる人は多くありません。SoundLink の価格帯にある他のいくつかのミキサーはシングルノブコンプレッサーを備えています…しかし、Peter Watts による洗練されたスタジオクラスの音質を提供できるのは、SoundLink だけです。

ユニークな 31 バンドパラグラフィックイコライザー。一度に 31 バンドの周波数帯を使うのではなく、Greg はマルチバンドイコライザーのほんの数バンドが音響問題を修正するために最も頻繁に使われることに着目しました。そのため、彼は SoundLink を 31 バンドの中の任意の 9 バンドの周波数ポイントを選択し、それらを同時にブースト/カット出来るようにデザインしました。既にチャンネルストリップのアナログ EQ が楽器またはボーカルの音作りを幅広くカバーしているため、この使い方ががもっともシンプルで効果的です。

「Musician's Phones」コントロール機能を備えた**特別なミュージシャンモニターセクション**。ミュージシャンの中には、インイヤーマニターやフロアモニターで自分の楽器や音声をもっと聞きたいと思う人もいます。これを他のミキサーで実現するには、複雑な作業が伴います。SoundLink では、これをたったワンノブで調整することが可能です。

コルグの有名な 32 ビットデジタルエフェクト - 一度に 10 個！コルグは、音楽業界に実用的で高品位なデジタルエフェクトが根付くまでの歴史を作り上げてきた数少ない老舗メーカーです。

Audiophile Velvet Sound ブランドの高級 A/D & D/A コンバーター。Velvet Sound は「黄金の耳」を持つオーディオ愛好家に好まれるトップブランドの 1 つです。Velvet Sound によって SoundLink は、自然でピュアな音 (全高調波歪率 0.004%) を実現しました。

シルクのように滑らかな操作感と耐久性を併せ持った **ALPS 社製のフェーダーとロータリーボリューム**を採用しました。

Greg と Peter は、DAW プログラムに代わって、より実用的なソリューションを提案します。付属される **iZotope™RX Elements** ソフトウェアを使用して、録音されたハムノイズや音割れの除去、室内の音響に関わる問題等を簡単に修正することができます。

目次

安全上のご注意	2
---------	---

はじめに	5
------	---

本書の表記について	5
Greg Mackie からの言葉	6
M&W による SoundLink の特徴紹介	6

かんたんセットアップ	9
------------	---

手順 1：電源コードを接続する	9
手順 2：楽器や外部機器を接続する	9
手順 3：本機と外部機器の電源を入れる	10
手順 4：各セクションの音量を調節する	10
手順 5：内蔵デジタルエフェクトを使う	11

接続	12
----	----

接続例 1 (ライブ、イベントなど)	12
接続例 2 (パーティー、レコーディングなど)	12

各部の名称と機能	13
----------	----

フロントパネル	13
モノラル入力セクション / ステレオ入力セクション	14
フロント入出力端子	15
デジタルセクション	16
マスターコントロールセクション	17
リアパネル	21

デジタルセクションの操作	23
--------------	----

エフェクトを使う	23
DFX を使う	23
ダイナミクス (DYNAMICS) を使う	24
イコライザー (Graphic EQ) を使う	25
Save (保存) 機能を使う	27
フィードバックサプレッサーを使う	29
GLOBAL メニュー (シーンメモリー、設定、初期化)	30
GLOBAL メニューを操作する	30
GLOBAL メニューの項目	30
工場出荷時の状態に戻す (Factory Reset)	31

こまったときは	32
---------	----

資料	33
----	----

エフェクト一覧とメモリー	33
エフェクト一覧	33
メモリー一覧	34
保存可能な設定	34
端子 / コネクタの種類と接続	35
XLR 端子	35
フォーン端子	35
ラックマウント (MW-2408 のみ)	36
ブロック / レベルダイアグラム	37

仕様	38
----	----

電気的特性 (入出力仕様)	38
一般仕様	39

かんたんセットアップ

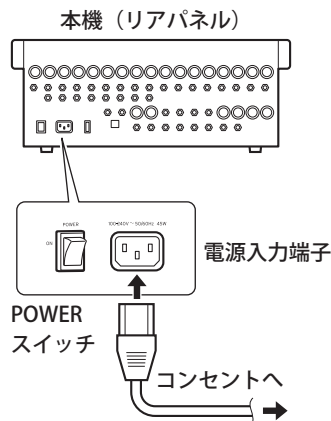
ここでは、本機に接続した楽器やマイクロフォンの音声をスピーカーやヘッドフォンで出力して、音量調節を行うまでの簡単な手順を説明します。

手順1 電源コードを接続する

警告

- 電源は必ず AC100V を使用してください。
- 電源コードは必ず付属のものを使用してください。
ほかの電源コードを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。

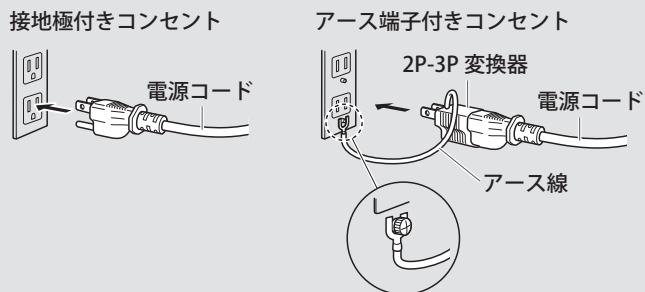
1. 本機リアパネルの POWER スイッチがオフになっていることを確認する。



2. 付属の電源コードを本機リアパネルの電源入力端子に接続する。

警告

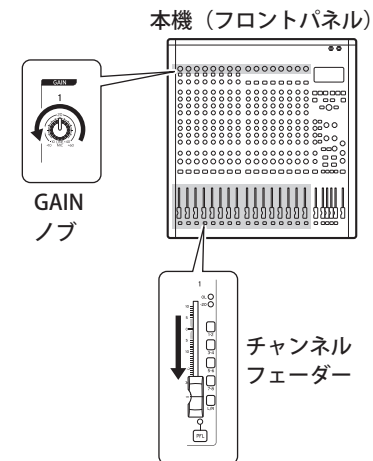
- 感電と機器の損傷を防ぐために、必ずアース（接地）接続を行ってください。
コンセントにアース端子がない場合は、必ず販売店または最寄りの電気工事店にご相談ください。



- アースの取り付けは、コンセントにプラグを差し込む前に行ってください。
- アースを外すときは、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。
漏電していると感電するおそれがあります。

手順2 楽器や外部機器を接続する

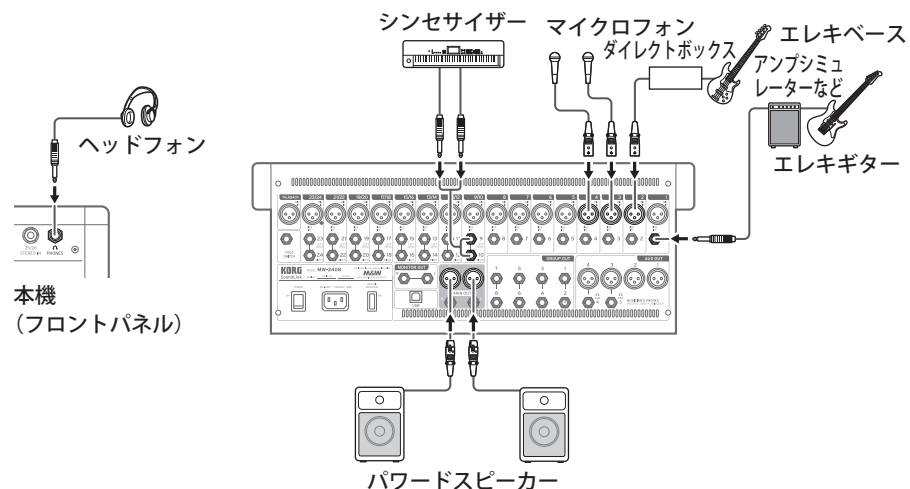
1. 全チャンネルの GAIN ノブとチャンネルフェーダー、およびマスターコントロールセクションの全ノブとフェーダーを最小にする。



2. 楽器やマイクロフォン、スピーカーなどを本機に接続する。
 - 本機の端子の種類や必要なケーブルについては、「端子/コネクタの種類と接続」(35 ページ) をご覧ください。
リアパネルの各端子の機能については、「リアパネル」(21 ページ) をご覧ください。

警告

接続は必ずすべての機器の電源をオフにした状態で行ってください。
不注意な操作を行うと感電やスピーカーシステムなどの破損、誤動作の原因になります。

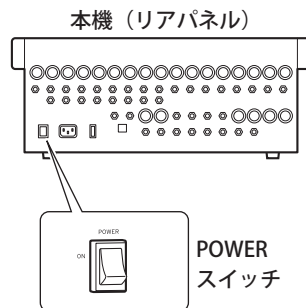


手順3 本機と外部機器の電源を入れる

⚠ 注意

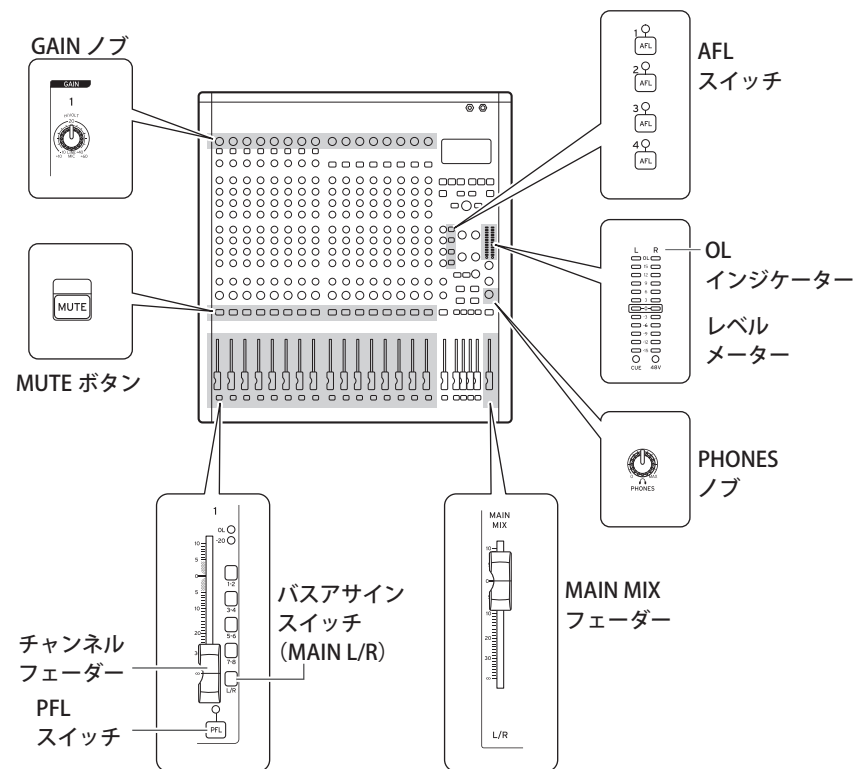
- 電源を入れるときは必ず以下の順番で行ってください。
大音量が出力されると、聴力障害や機器の故障などにつながる恐れがあります。
- ファンタム電源 (22 ページ) をオンにする場合は、必ずパワーアンプやパワードスピーカーなどの電源を切った状態で操作してください。

1. 入力機器 (楽器、マイクロフォンなど) の電源を入れる。
2. 本機リアパネルの POWER スイッチをオン (ON) にする。
3. 出力機器 (パワードスピーカーなど) の電源を入れる。



- エレキギターやエレキベースを本機に直接接続すると、ノイズが生じる場合があります。ダイレクトボックスやアンプシミュレーターを使って本機に接続することをおすすめします。
- 電源を切るときは、出力機器→本機→入力機器の順に切ってください。

手順4 各セクションの音量を調節する



1. 本機のレベルメーターを確認しながら楽器やマイクロフォンの音を出し、機器を接続した各チャンネルの OL インジケーターが一瞬点灯する程度に各チャンネルの GAIN ノブを調節する。
2. 使用するチャンネルの MUTE (消音) 機能を無効 (LED 消灯) にし、バスアサインスイッチ (MAIN L/R) を有効 (■) にする。
3. すべての PFL スイッチと AFL スイッチが無効 (■) になっていることを確認する。
4. MAIN MIX フェーダーを「0」の位置に合わせる。

5. 各チャンネルのフェーダーを操作して、チャンネル間の音量バランスを調節する。
6. MAIN MIX フェーダーで全体の音量を調節する。



ヘッドフォンの音量を調節するには、PHONES ノブを操作してください。

手順 5 ▶ 内蔵デジタルエフェクトを使う



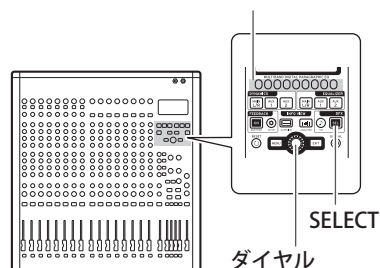
内蔵デジタルエフェクトについて詳しくは「DFX（デジタルエフェクト）」（33 ページ）をご覧ください。

1. FX MUTE ボタンで内蔵デジタルエフェクトのミュートを解除する。
2. FX RETURN フェーダーでエフェクト音のレベルを適度に上げる。

3. FX セクションの SELECT ボタンを押す。
「DFX TYPE SELECT」画面が表示されます。



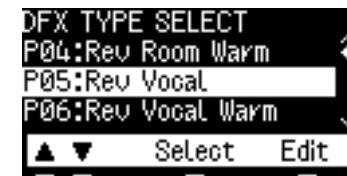
ファンクションボタン



4. ダイアルを回して目的のエフェクトタイプにカーソルを合わせ、ダイヤルを押して決定する。



ファンクションボタン「▲」/「▼」でもエフェクトタイプを選択できます。押すと即座に切り替わるので、効果を確認しながら切り替えることができます。

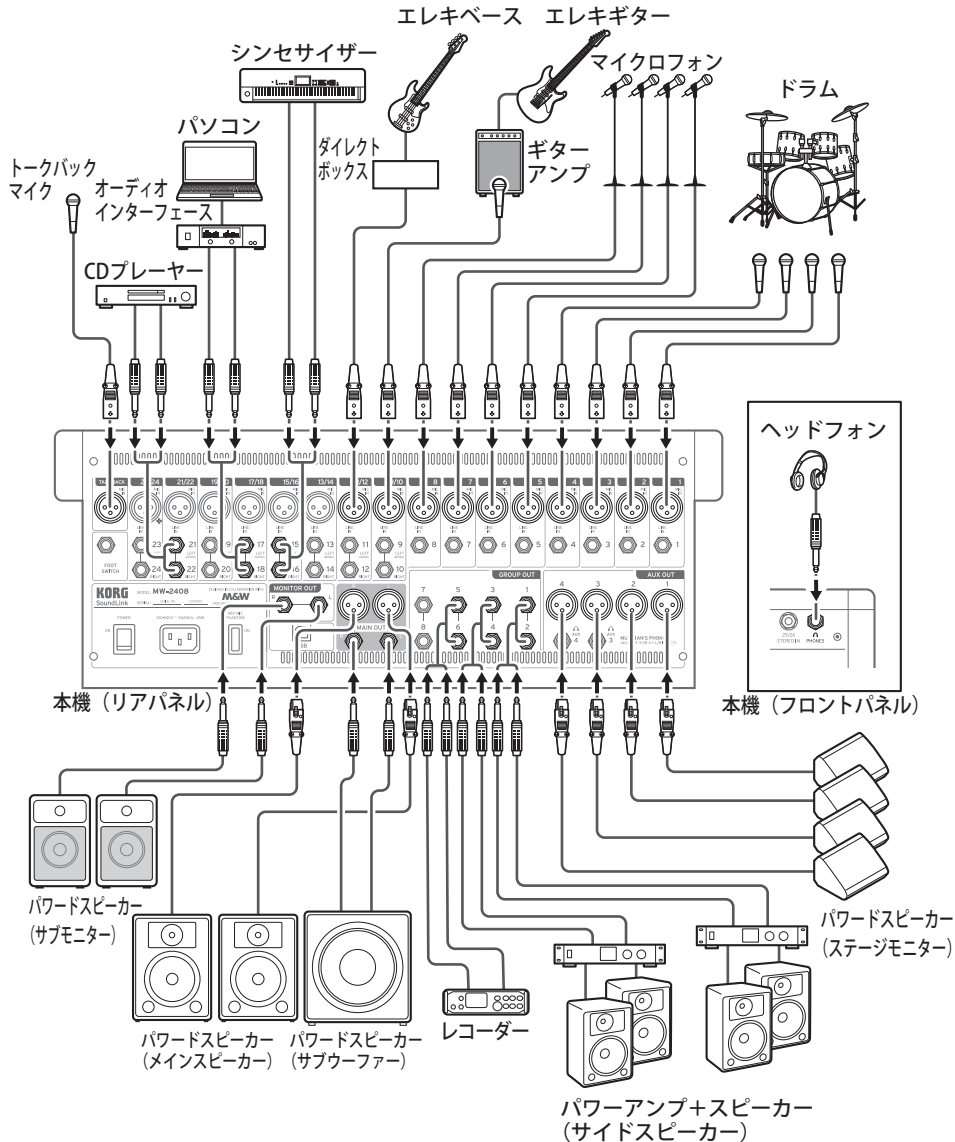


5. チャンネルの FX ノブでエフェクトに送るレベルを調節する。
6. FX RETURN フェーダーで全チャンネルのエフェクト音のレベルを調節する。

接続

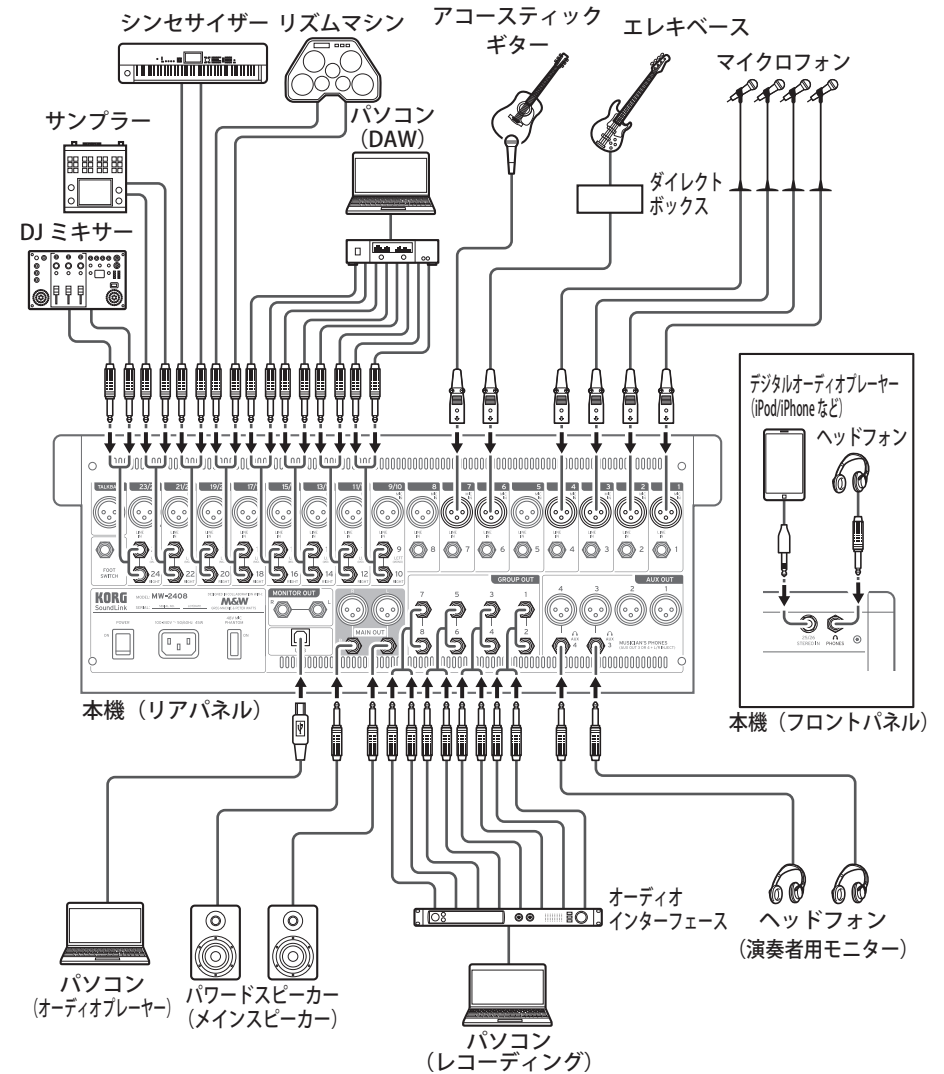
接続例 1 (ライブ、イベントなど)

NOTE エレキギターやエレキベースを本機に直接接続すると、ノイズが生じる場合があります。ダイレクトボックスやアンプシミュレーターを使って本機に接続することをおすすめします。



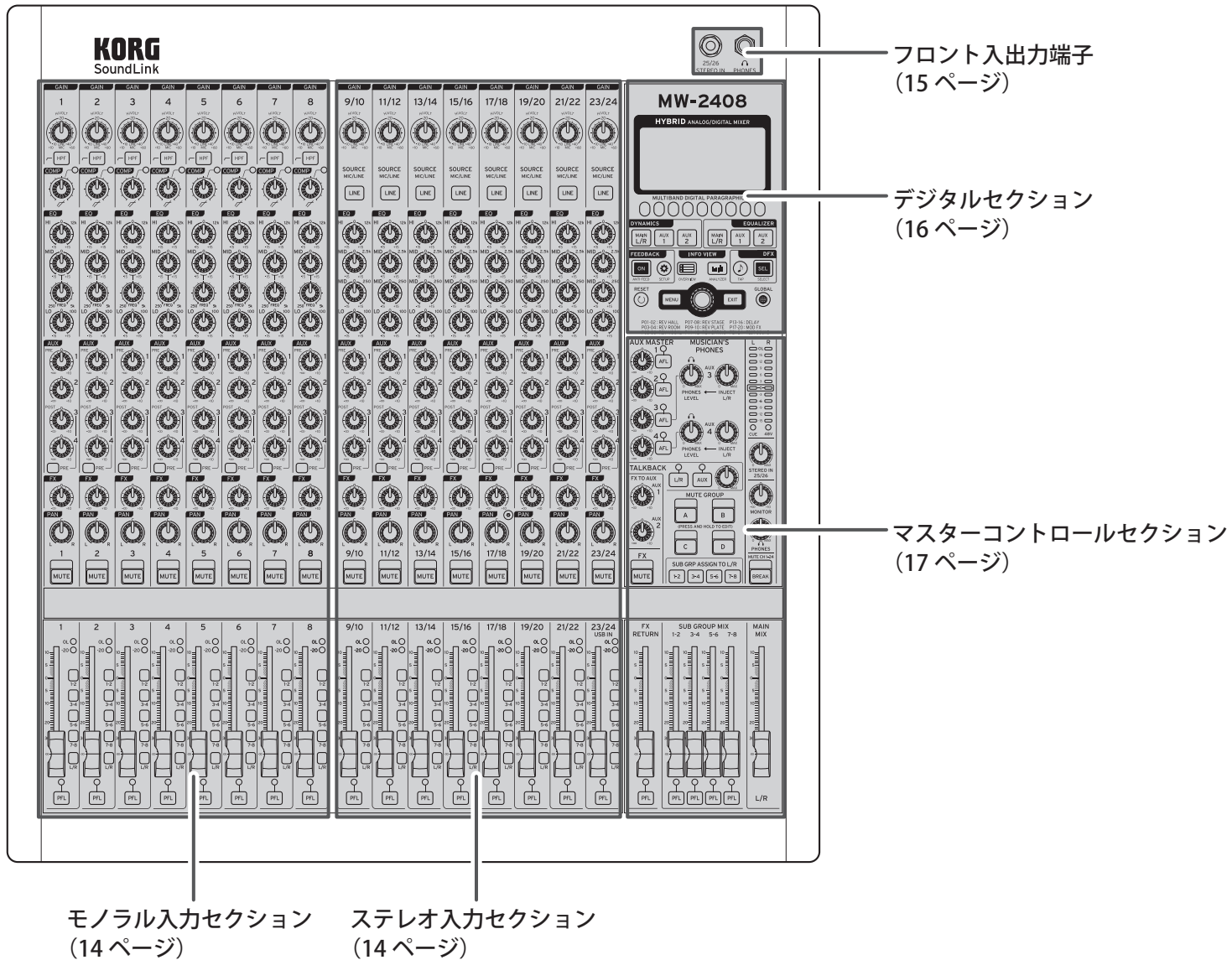
接続例 2 (パーティー、レコーディングなど)

NOTE エレキギターやエレキベースを本機に直接接続すると、ノイズが生じる場合があります。ダイレクトボックスやアンプシミュレーターを使って本機に接続することをおすすめします。

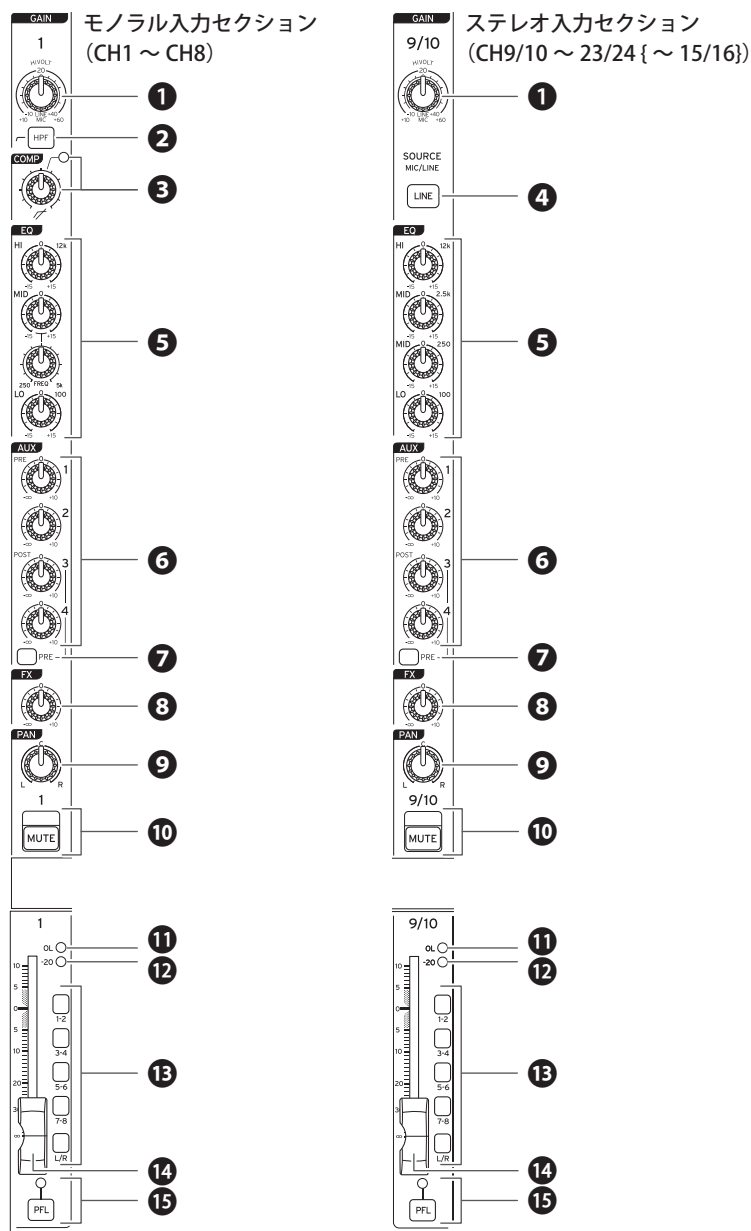


各部の名称と機能

フロントパネル



モノラル入力セクション / ステレオ入力セクション



NOTE ステレオ入力セクション (CH9/10 ~ 23/24 { ~ 15/16 }) の LINE 入力端子は、ステレオ / モノラル兼用です。モノラル入力の場合は L/MONO 端子に接続してください。

- 1 GAIN ノブ**
入力信号の感度を調節します。
 - 2 HPF スイッチ**
ハイパスフィルターの有効 () / 無効 () を切り替えます。
有効にすると、100Hz より低い周波数の成分が 12dB/oct のスロープで減衰されます。
 - 3 COMP ノブ / インジケーター**
コンプレッサー (音の圧縮効果) のかかり具合を調節します。ノブを右に回すと、小さな音を持ち上げ大きな音を抑える効果が強まり、全体の音圧を高めてパワフルな音にすることができます。
過大な音を圧縮しているときにインジケーターが点灯します。
 - 4 MIC/LINE スイッチ (ステレオ入力セクションのみ)**
使用する入力端子に応じてチャンネルの設定を切り替えます。
MIC IN 端子を使用するときは MIC () に設定します。
LINE IN 端子を使用するときは LINE () に設定します。
- NOTE** MIC IN 端子と LINE IN 端子は同時に使用できません。
- 5 EQ (イコライザー) ノブ**
チャンネルの高域 (HI)、中域 (MID)、低域 (LO) の増幅 / 減衰量 (イコライザー) を調節します。
増幅させる場合は右に、減衰させる場合は左に回します。「0」の場合はフラットな特性になります。

バンド	基準周波数	増幅 / 減衰量
高域 (HI)	12kHz	-15dB ~ +15dB
中域 (MID)	モノラル入力セクション : 250Hz ~ 5kHz ステレオ入力セクション : 250Hz、2.5kHz	-15dB ~ +15dB
低域 (LO)	100Hz	-15dB ~ +15dB



- モノラル入力セクションの中域 (MID) は、下部のノブで基準周波数 (250Hz ~ 5kHz) を設定し、上部のノブで増幅 / 減衰量を調節します。
- ステレオ入力セクションの中域 (MID) は、下部のノブで基準周波数 250Hz、上部のノブで基準周波数 2.5kHz の増幅 / 減衰量を調節します。

6 AUX (1 ~ 4) SEND ノブ

チャンネルから AUX1 ~ 4 バスに送る信号レベルを調節します。



- ステレオ入力の場合は、左右の信号をミックスして AUX バスに送ります。
- AUX1 ~ 2 は常に PRE です。AUX3 ~ 4 は PRE スイッチで PRE/POST を選択できます。

7 PRE スイッチ

AUX3 ~ 4 バスに送る信号の取り出し位置をプリフェーダー () / ポストフェーダー () で切り替えます。

8 FX SEND ノブ

チャンネルから FX バスに送る信号レベルを調節します。



FX SEND は常に POST です。

9 PAN ノブ

モノラル入力の場合は音の低位 (左 / 右)、ステレオ入力の場合は音量バランス (左 / 右) を調節します。

10 MUTE ボタン / インジケータ

チャンネルの MUTE (消音) 機能を有効 / 無効にします。
有効にすると、AUX と FX およびアサインスイッチで指定したバスに送られる信号がすべて消音されます。



- PFL 機能は MUTE の設定に関係なく、常に使用できます。
- MUTE 機能が有効のときは、以下のとおりインジケータが点灯します。
赤色：チャンネルの MUTE ボタン操作による MUTE
黄色：MUTE GROUP 機能や BREAK 機能の操作による MUTE
- ノイズ防止のため、使用していないチャンネルは MUTE しておいてください。

11 OL (オーバーロード) インジケータ

入力信号 (イコライザ処理後) がクリップレベルの 3dB 手前に達するとインジケータが点灯します。

12 -20dB インジケータ

チャンネル内の信号が -20dB 以上になるとインジケータが点灯します。

13 バスアサインスイッチ

チャンネルから各バス (GROUP1-2、3-4、5-6、7-8、MAIN L/R) への信号出力を有効 () / 無効 () にします。
有効 () にすると、それぞれのバスに信号を送ります。

14 チャンネルフェーダー

チャンネルに入力された信号の出力レベルを調節し、チャンネル全体の音量バランスを調整します。

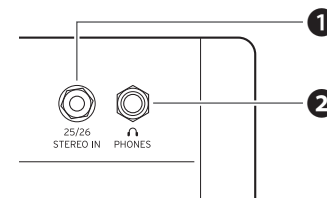


ノイズ防止のため、使用していないチャンネルのフェーダーは下げてください。

15 PFL スイッチ / インジケータ

PFL (プリフェーダーリッスン) 機能を有効 () / 無効 () にします。
有効にすると、チャンネルフェーダー調整前の信号 (プリフェーダー) が PHONES 端子と MONITOR OUT 出力端子から出力されます。
有効のときはインジケータが点灯します。

フロント入出力端子



1 STEREO IN (25/26 {17/18}) 端子

デジタルオーディオプレーヤーなどを接続します。ステレオミニプラグ (3.5mm) のオーディオケーブルを使用します。



NOTE

- 信号レベルが下がるため、抵抗入りのオーディオケーブルを使用しないでください。
- STEREO IN ノブで音量を調整できます。調整後の信号は、直接 MAIN OUT 出力端子に送られます。

2 PHONES 端子

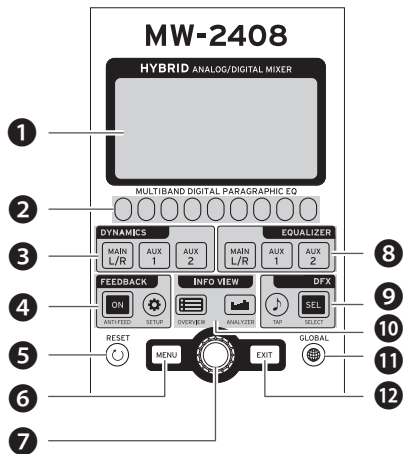
ヘッドフォンを接続します。



HINT

- PHONES 端子と MONITOR OUT 出力端子からは同じ信号が出力されます。
- 通常は MAIN MIX の信号が出力されています。PFL や AFL を有効にすると、それらのチャンネルやバスの信号をダイレクトに聴くことができます。このとき、MAIN MIX の信号は MUTE されます。
- PFL と AFL が同時に有効のときは、PFL の信号が優先されます。

デジタルセクション



1 ディスプレイ

各種設定やメッセージを表示します。

2 ファンクションボタン

ディスプレイに表示された項目を選択します。
パラメーターやイコライザーバンドの選択、コマンドの実行などを行うことができます。

3 DYNAMICS セクション

ダイナミクス (リミッター、コンプレッサー、ノイズゲート) の設定を変更します (24 ページ)。

MAIN L/R、AUX1、AUX2 ボタン

各バスのダイナミクス設定画面を表示したり、有効 / 無効を切り替えたりします。

4 FEEDBACK セクション

不快なハウリングを自動的に抑制するフィードバックサプレッサーを設定します (29 ページ)。

ANTI-FEED ボタン

フィードバックサプレッサーを有効 / 無効にします。

SETUP ボタン

フィードバックサプレッサーの設定画面を表示します。

5 RESET ボタン

設定中のパラメーターを初期値に戻します。長押しすると、操作中のモジュール全体を初期化することができます。

6 MENU ボタン

設定や保存のメニューを表示します。ダイナミクス、イコライザー、および DFX の各セクションにそれぞれのメニューが用意されています。

7 ダイヤル

ダイヤルを回してパラメーターの調節や項目の選択をし、ダイヤルを押して決定や実行をします。

8 EQUALIZER セクション

グラフィックイコライザーを設定します (25 ページ)。

MAIN L/R、AUX1、AUX2 ボタン

各バスのグラフィックイコライザー設定画面を表示したり、有効 / 無効を切り替えたりします。

9 DFX セクション

内蔵デジタルエフェクトを設定します (23 ページ)。

TAP ボタン

ディレイ系エフェクトのタイムを設定します。ボタンを繰り返し押しすと、その間隔がタイムに反映されます。

ボタンが設定間隔で点滅します。

SELECT ボタン

エフェクトタイプの選択や、エディット (設定) をおこないます。

10 INFO VIEW セクション

情報画面を表示します。

OVERVIEW ボタン

オーバービュー画面（ホーム画面）を表示します。デジタルセクションの設定状況を一覽で確認できます。



別の画面で EXIT ボタンを繰り返し押しすと、オーバービュー画面（ホーム画面）に戻ります。

ANALYZER ボタン

スペクトラムアナライザー画面を表示します。モニターバス（MONITOR や PHONES の信号）を解析します。

11 GLOBAL ボタン

GLOBAL メニュー（本機の各種設定）を表示します（30 ページ）。

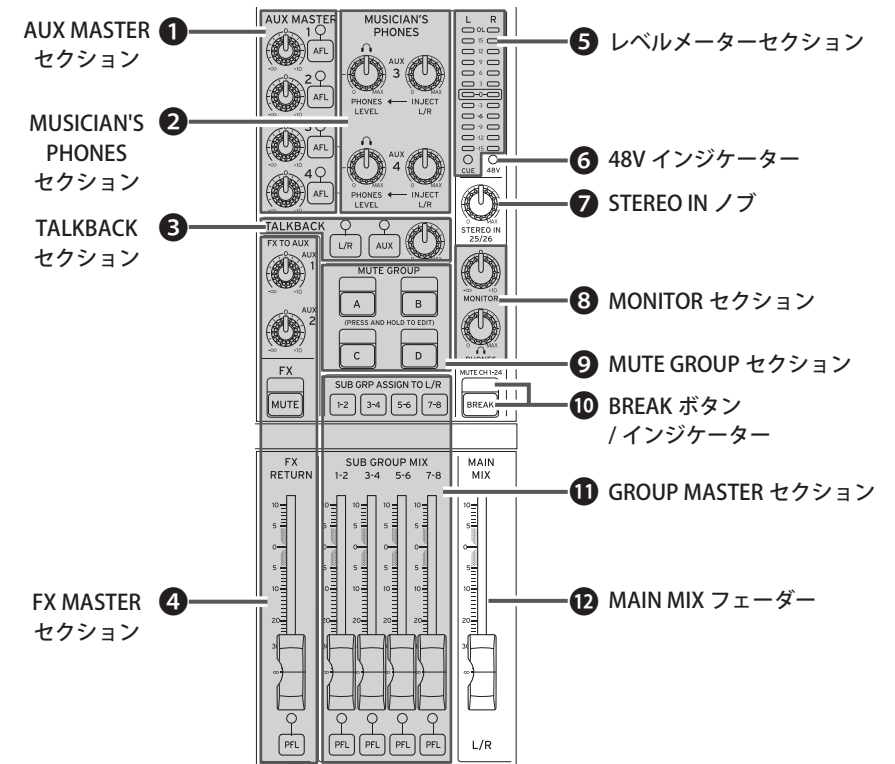
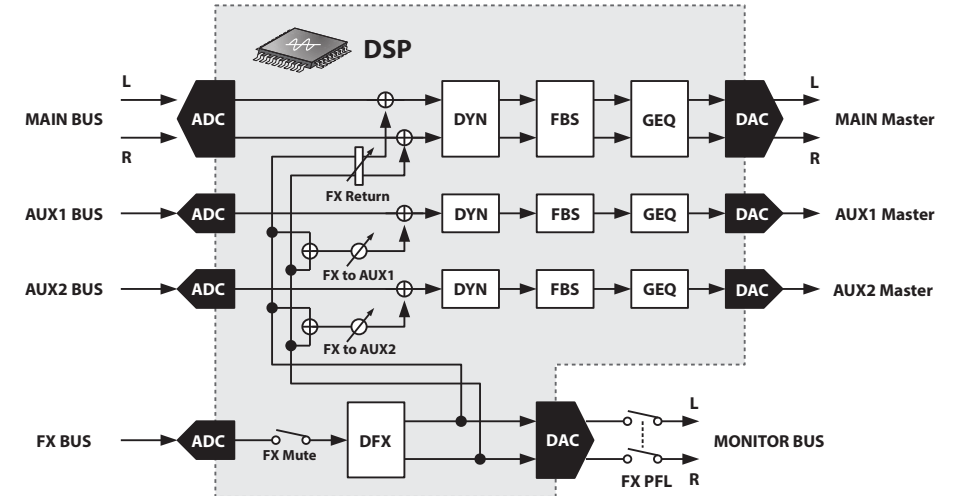
12 EXIT ボタン

1 つ前の画面に戻ります。



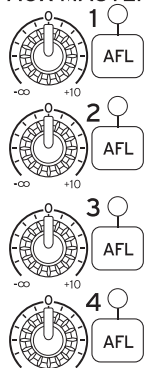
繰り返し押しすと、オーバービュー画面（ホーム画面）に戻ります。

マスターコントロールセクション



1 AUX MASTER セクション

AUX MASTER



AUX MASTER (1 ~ 4) ノブ

AUX OUT 1 ~ 4 出力端子に出力される信号のレベルを調節します。

AFL (アフターフェーダーリスン) スイッチ/インジケータ

AFL 機能を有効 () / 無効 (■) にします。

有効にすると、AUX MASTER (1 ~ 4) ノブ調整後の信号を MONITOR や PHONES を通して確認することができます。

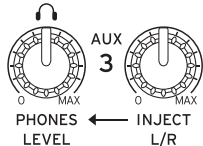


AFL が有効のとき、インジケータが点灯します。

2 MUSICIAN'S PHONES セクション

MUSICIAN'S PHONES

MUSICIAN'S PHONES を調節します。AUX3/4 の信号と MAIN L/R の信号を使って、演奏者に適したモニター音を手早くセットアップできます。

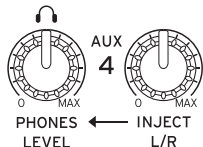


PHONES LEVEL ノブ

MUSICIAN'S PHONES の音量を調節します。

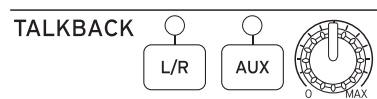
INJECT L/R ノブ

MAIN L/R バスの信号を、AUX3/4 バスにミックスするレベルを調節します。AUX3/4 出力と MUSICIAN'S PHONES 出力の両方にミックスされます。



INJECT L/R でミックスされた信号は、MUSICIAN'S PHONES 出力端子にはステレオのまま送られます。AUX OUT 出力端子にはモノラルミックスして送られます。

3 TALKBACK セクション



TALKBACK MIC の音量や送り先を調節します。

L/R スイッチ/インジケータ

TALKBACK の音声を、MAIN OUT 出力端子に送ります。TALKBACK の音量は、MAIN MIX フェーダーの影響を受けません。有効のとき、インジケータが点滅します。

AUX スイッチ/インジケータ

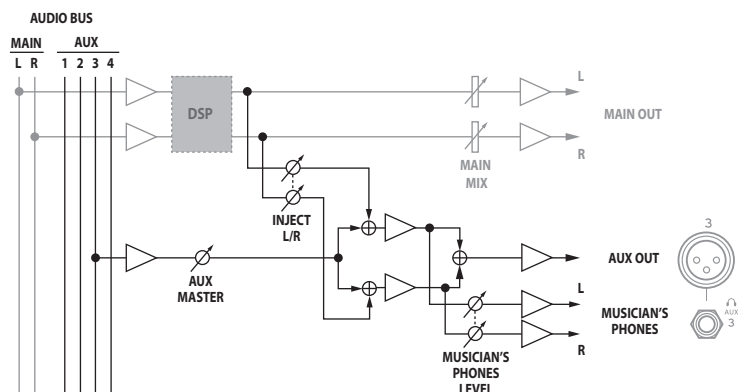
TALKBACK の音声を、AUX OUT1 ~ 4 出力端子すべてに送ります。TALKBACK の音量は、AUX MASTER ノブの影響を受けません。有効のとき、インジケータが点滅します。



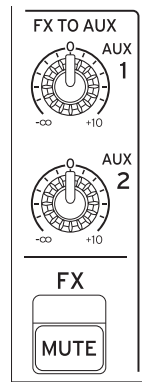
AUX 3 ~ 4 に送られた音声は、MUSICIAN'S PHONES のヘッドフォンにも送られます。

TALKBACK ノブ

TALKBACK 音声の音量を調節します。



4 FX MASTER セクション



エフェクトの音量やミュートなどを調節します。

FX TO AUX (1/2) ノブ

AUX1/2 バスに送るエフェクトの音量を調節します。

FX MUTE ボタン/インジケータ

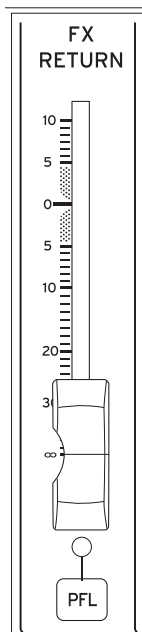
内蔵エフェクトの MUTE (消音) 機能を有効 / 無効にします。有効のとき、インジケータが点灯します。



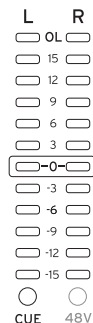
フットスイッチ (別売) を接続すると、FX MUTE をリモートで制御できます。フットスイッチを使って MUTE を有効にしたときは、インジケータが点滅します。

FX RETURN フェーダー

MAIN L/R バスに送るエフェクトの音量を調節します。



5 レベルメーター セクション



レベルメーター

モニターバスの信号レベルを表示します。



ANALYZER 画面 (17 ページ) では、レベルメーターが表示しているのと同じ信号を解析して、周波数ごとのレベルを表示します。

CUE インジケータ

レベルメーターが表示する、モニターバスの信号ソースを示します。
点滅：PFL や AFL が有効になっている、チャンネルやバスの信号
消灯：MAIN MIX バスの信号

6 48V インジケータ



MIC のファンタム電源 (22 ページ) がオンのときに点灯します。

7 STEREO IN (25/26 {17/18}) ノブ

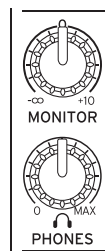


フロントパネルの STEREO IN 端子の音量を調節します。



このノブで調節された信号は、MAIN OUT 出力端子に直接送られます。BREAK など消音されることはありません。

8 MONITOR セクション



各モニターの出出力レベルを調節します。

MONITOR ノブ

MONITOR OUT 出力端子の出出力レベルを調節します。

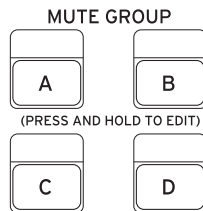
PHONES ノブ

PHONES 端子の音量を調節します。



モニター出力は、MAIN L/R バスと モニターバスのいずれかを出力します。
信号ソースは、CUE インジケータで確認できます。

9 MUTE GROUP セクション



MUTE GROUP ボタン / インジケータ

入力セクション (1 ~ 24 {1 ~ 16}) の MUTE (消音) を一斉にコントロールするミュートグループ機能を操作 / 設定します。

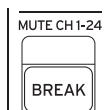
グループが有効のとき、インジケータが点灯します。

プログラム中は、インジケータが点滅します。



- 設定を変更するには、グループボタンを長押ししてプログラムモードに入り、各チャンネルの MUTE ボタンで登録 / 解除します。プログラムが終わったら、点滅しているグループボタンを押してプログラムモードを終了します。
- MUTE GROUP 機能によってミュートされたチャンネルを、各チャンネルの MUTE ボタンで個別に解除できます。

10 BREAK ボタン / インジケータ



すべての入力チャンネル (CH1 ~ 24) {CH1 ~ 16} の MUTE (消音) を一斉に有効にします。もう一度押すと、元の状態に戻ります。

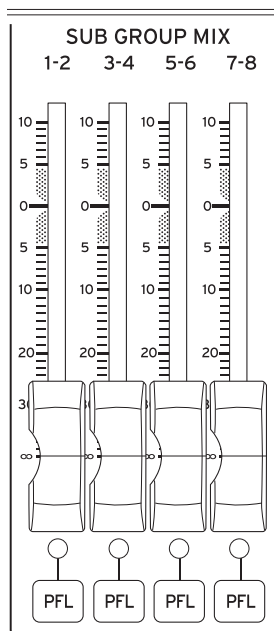
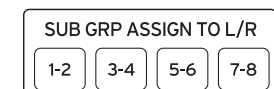
有効のとき、インジケータが点滅します。



次の入力とバスは、BREAK 機能ではミュートされません。

- STEREO IN 入力
- TALKBACK 入力
- 各チャンネルの PFL バス
- FX RETURN

11 GROUP MASTER セクション



SUB GROUP ASSIGN TO L/R スイッチ

各 GROUP の信号を、MAIN L/R バスに送るスイッチです。GROUP MIX フェーダーで調節した信号が送られます。

SUB GROUP MASTER フェーダー

各 GROUP のレベルを調節します。

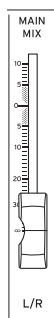
PFL スイッチ / インジケータ

各 GROUP の信号をモニターで確認するためのスイッチです。

有効にすると、各 GROUP MIX フェーダーの調整後の信号が PHONES 端子と MONITOR OUT 出力端子に送られます。

有効のとき、インジケータが点灯します。

12 MAIN MIX (L/R) フェーダー

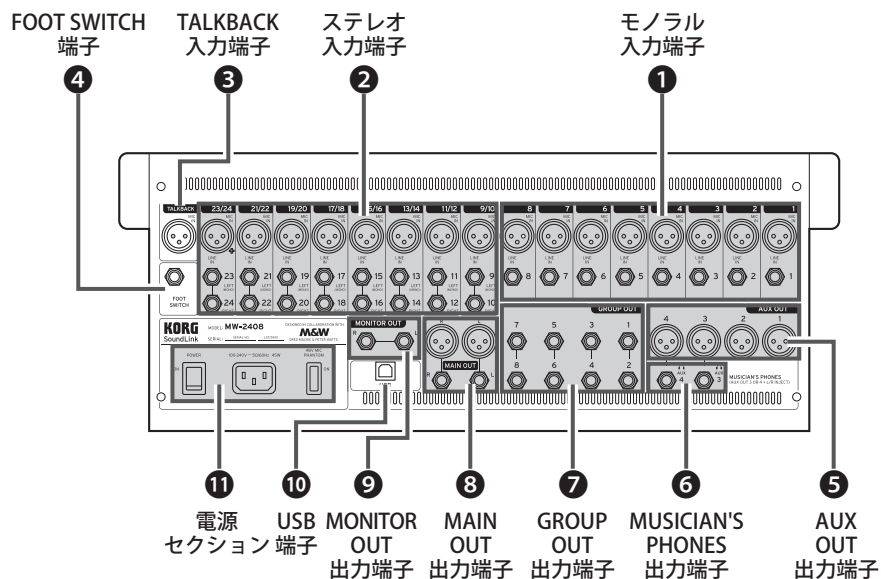


MAIN MIX のレベルを調節します。



USB 端子の出力には、MAIN MIX フェーダーで調節された信号が送られます。

リアパネル



1 モノラル入力端子



MIC IN 端子 [XLR/ バランス (モノラル)]

ダイナミックマイクやコンデンサーマイクを接続する端子です。



LINE IN 端子 [TRS フォーン/ バランス (モノラル)]

シンセサイザーやオーディオ機器のライン信号を接続する端子です。



NOTE MIC IN 端子と LINE IN 端子は同時に使用できません。

2 ステレオ入力端子



MIC IN 端子 [XLR/ バランス (モノラル)]

ダイナミックマイクやコンデンサーマイクを接続する端子です。



LINE IN 端子 [TRS フォーン/ バランス (モノラル x2)]

シンセサイザーやオーディオ機器のライン信号を接続する端子です。

モノラルの場合は、LEFT(MONO) 端子に接続します。



- MIC IN 端子と LINE IN 端子は同時に使用できません。
- 使用端子に応じて MIC/LINE スイッチを切り替えてください (14 ページ)。

3 TALKBACK 入力端子



MIC IN 端子 [XLR/ バランス (モノラル)]

トークバック用マイクロフォンを接続する端子です。

ミキサー側からステージへモニタースピーカーなどを通じて指示を出すときに使用します。会場のアナウンス用マイクロフォンとして使うこともできます。

4 FOOT SWITCH 端子

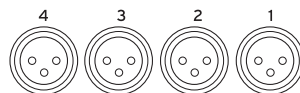


FX MASTER セクションのミュートをリモート操作するフットスイッチを接続します。



オプション (別売) のフットスイッチ : PS-1、PS-3

5 AUX OUT 出力端子 [XLR/ バランス]



AUX バスの信号が出力される端子です。

AUX MASTER ノブでレベルを調節します。

演奏者用のモニタースピーカーや、外部のエフェクターに送る用途に使用します。

6 MUSICIAN'S PHONES 出力端子 [TRS ステレオフォン/ アンバランス]



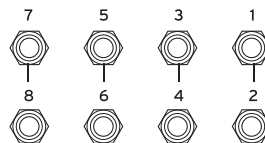
演奏者用のモニターヘッドフォンを接続します。

AUX3 または AUX4 の出力と同じ信号をモニターできます。



AUX3/4 には MAIN L/R の信号をミックスすることができます。

7 GROUP OUT 出力端子 [TRS フォーン/ インピーダンスバランス]

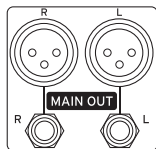


GROUP バスの信号が出力される端子です。

SUB GROUP MASTER フェーダーでレベルを調節します。

出力数を活かし、さまざまな用途に使用できます。

8 MAIN OUT 出力端子 [XLR/バランス]/[TRS フォーン/バランス]



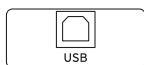
本機のメイン出力です。MAIN L/R バスの信号が出力されます。
MAIN MIX (L/R) フェーダーでレベルを調節します。
XLR 端子とフォーン端子は、同じ信号が出力されます。
これらの端子は、同時に使用することができます。

9 MONITOR OUT 出力端子 [TRS フォーン/インピーダンスバランス]



MONITOR バスの信号が出力される端子です。
MONITOR ノブでレベルを調節します。
通常は、MAIN L/R バスの信号が出力されます。AFL/PFL 機能を有効にすると、特定のチャンネルやバスの信号を出力します。

10 USB 端子



USB オーディオを入出力する端子です。(44.1/48kHz, 16/24bit)
PC/Mac や iOS 機器 (iPhone/iPad など) を接続します。(USB2.0)



NOTE

- Windows、Mac OS、iOS の標準ドライバーで動作します。
- Windows で ASIO 対応アプリケーションを使用する場合は、コルグ ウェブサイトで公開される KORG Basic Audio Driver をインストールしてください。
- Lightning 端子搭載の iPhone/iPad との接続には、Apple 社純正の Lightning to USB 3 カメラアダプタが必要です。
- iPhone/iPad 接続時は、「機内モード」を有効にすることをおすすめします。

USB IN

接続機器から入力された信号は、ステレオ入力の右端のチャンネルに送られます。
(MW-2408:23/24ch, MW-1608:15/16ch)

信号は、チャンネル EQ の前段に入力されます。チャンネル EQ で音色を調節できます。

USB OUT

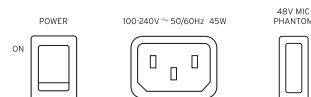
MAIN OUT 出力端子とおなじ信号が、接続機器へ出力されます。
出力レベルは、MAIN MIX (L/R) フェーダーで調節します。



NOTE

STEREO IN や TALKBACK の信号も出力されます。それらの信号レベルは STEREO IN ノブや TALKBACK ノブで調節します。

11 電源セクション



POWER スイッチ

本体の電源をオン (ON) / オフにします。

注記

電源をオフにしてすぐにオンすると、誤動作の原因になることがあります。
電源スイッチは、5 秒以上の間隔をあけて操作してください。

電源入力端子

付属の電源コードを接続します。本機と電源コードを接続してから、電源プラグをコンセントに差し込みます。

48V MIC PHANTOM スイッチ

ファンタム電源をオン/オフにします。コンデンサーマイクやダイレクトボックスなど、ファンタム電源で動作する機器を使用する際に、オンにしてください。

オンにすると、レベルメーターの 48V インジケーターが点灯し、各入力チャンネルの MIC IN(XLR 端子) に DC+48V が供給されます。

注意

ファンタム電源をオン/オフするときは、各チャンネルの GAIN ノブやフェーダーを最小にしてください。
ファンタム電源をオン/オフする際のノイズが増幅されて大音量のノイズが出力されると、聴力障害または機器の故障の原因となります。

注記

- ファンタム電源をオンにする場合は、ファンタム電源を必要とする機器以外の機器がマイク入力端子に接続されていないことを確認してください。
外部機器の故障の原因になります。
- ファンタム電源をオフにした直後に、各チャンネルの MIC 端子の抜き差しをしないでください。
故障の原因になります。

デジタルセクションの操作

エフェクトを使う

MWシリーズには、3種類のエフェクトセクション(DFX、DYNAMICS、EQUALIZER)があります。DFX (Send-Return 型) : 入力チャンネルの信号にリバーブやディレイなどの効果を加えるときに使用します。DFXにはオシレーター(発振器)機能もあり、Sin波やノイズといった、PAで便利な基準音を出すこともできます。

DYNAMICS / EQUALIZER (Bus-Insert 型) : MAIN や AUX1/2 のバスの信号に対して、コンプレッサーやノイズゲート、グラフィックイコライザーなどの効果を加えることができます。

DFXを使う

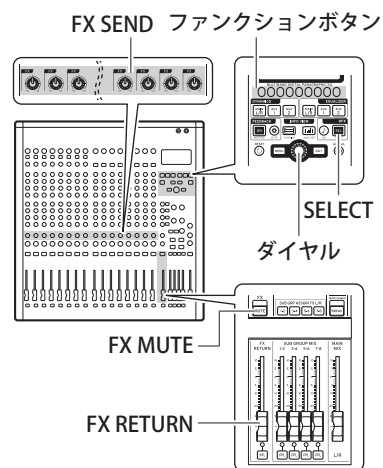
DFXには24タイプのエフェクトとオシレーターがあります。

また、エディット(編集)したエフェクトをユーザータイプとして保存することができます(最大30)。

エフェクトタイプの種類と効果については「DFX(デジタルエフェクト)」(33ページ)をご覧ください。

エフェクトタイプを選ぶ

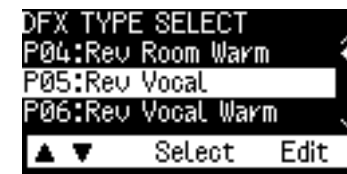
1. DFXセクションのSELECTボタンを押す。
「DFX TYPE SELECT」画面が表示されます。



2. ダイヤルまたはファンクションボタンでタイプを選ぶ。

ダイヤル: ダイヤルを回して目的のエフェクトタイプにカーソルを合わせ、ダイヤルを押して決定する。

ファンクションボタン: 「▲」/「▼」を押してエフェクトタイプを変更する。押すと即座に切り替わるので、効果を確認しながら切り替えることができます。



3. FX MUTE ボタンで MUTE インジケータを消灯させる。
4. FX RETURN フェーダーを「0」の位置まで上げる。
5. 各チャンネルの FX SEND ノブで、FX に送るレベルを調節する。
6. FX RETURN フェーダーでエフェクト効果全体のレベルを調節する。

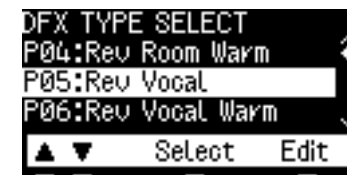
エフェクトをエディット(編集)する

エフェクトパラメーターを操作して、効果を調節します。



エフェクトタイプによって、パラメーターの効果が異なります。詳しくは「DFX(デジタルエフェクト)」(33ページ)をご覧ください。

1. エフェクトタイプを選ぶ。
2. 「Edit」と表示されているファンクションボタンを押す。



3. ファンクションボタンでパラメーターを選ぶ。



1つ前の画面に戻るには、EXITボタンまたは「TYPE」と表示されているファンクションボタンを押します。



4. ダイアルを回して調節する。



RESET ボタンを押すと、操作中のパラメーターが初期値に戻ります。RESET ボタンを長押しすると、操作中のエフェクトが初期化されます。



設定によっては、音が歪んだり発振したりする場合があります。

TAP ボタンでディレイタイムを設定する

Delay エフェクトは、TAP ボタンのタップ間隔でディレイタイムを設定できます。



以下のエフェクトでは TAP ボタンを使用できます。

- Delay Analog
- Tape Echo
- Delay Standard
- Delay SDD3000

1. Delay のエフェクトタイプを選ぶ。
タイムパラメーターの設定間隔で TAP ボタンが点滅します。
2. 設定したい間隔で TAP ボタンを繰り返し押す。
ボタンを押した間隔の平均値からタイムが設定されます。

ユーザータイプとして Save (保存) する

エディット (編集) したエフェクトをユーザータイプとして保存し、いつでも呼び出すことができます (最大 30)。

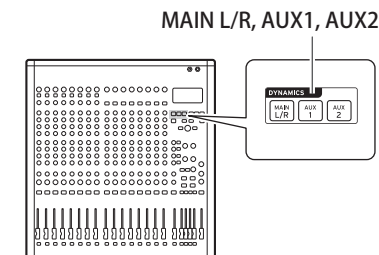
詳しくは「Save (保存) 機能を使う」(27 ページ) をご覧ください。

ダイナミクス (DYNAMICS) を使う

DYNAMICS には 5 タイプのエフェクトがあります。また、エディット (編集) したエフェクトをユーザータイプとして保存することができます (最大 10)。エフェクトタイプの種類と効果については「DYN (ダイナミクス)」(33 ページ) をご覧ください。」

ダイナミクスを有効 / 無効にする

DYNAMICS セクションの MAIN L/R ボタン、AUX1 ボタン、または AUX2 ボタンを繰り返し押しする。



ボタンを押すたびに、該当バスのダイナミクスが「ON」(有効) / 「OFF」(無効) に切り替わります。

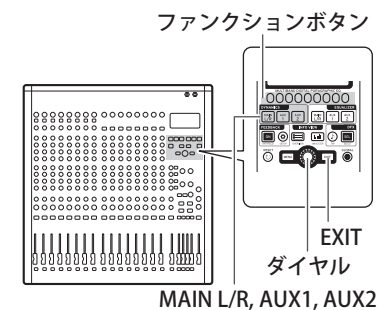


DYNAMICS のタイプを変更する

DYNAMICS のタイプを変更します。

- リミッター：過大な音を圧縮する。
- コンプレッサー：音圧を整えてパワフルにする。
- ノイズゲート：静かなときにノイズを抑える。

1. DYNAMICS セクションの MAIN L/R ボタン、AUX1 ボタン、または AUX2 ボタンを押して、タイプを変更するバスを選ぶ。



2. 「TYPE」と表示されているファンクションボタンを押す。
「DYN TYPE SELECT」画面が表示されます。



3. ダイヤルを回してタイプを選び、ダイヤルを押して決定する。



HINT

各タイプについて詳しくは「DYN (ダイナミクス)」(33 ページ) をご覧ください。



4. 「Edit」と表示されているファンクションボタンを押す。

5. ファンクションボタンでパラメーターを選ぶ。

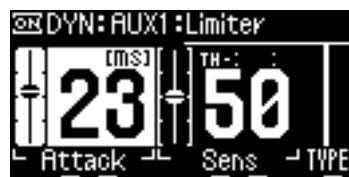


6. ダイヤルを回して調節する。



HINT

- 「Sens」の「TH-」インジケータは、入力信号が設定閾値を超えたときにマークを表示します。インジケータを確認しながら「Sens」を設定して、エフェクトの効き具合を調節してください。
- インジケータ点灯時、各タイプはそれぞれ以下の動作をしています。
 - Lim、Comp：過大入力の抑制
 - NsGate：ノイズゲートの開放 (MUTE の解除)



イコライザー (Graphic EQ) を使う

9 バンドイコライザーの設定 (モード、ゲイン、周波数) を変更します。

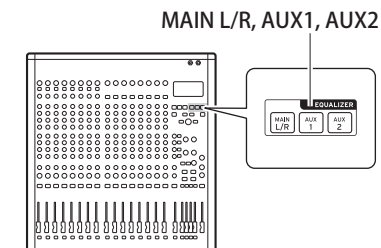


NOTE

周波数は、イコライザーモードが「Narrow」のときに調節できます。

イコライザーを有効 / 無効にする

EQUALIZER セクションの MAIN L/R ボタン、AUX1 ボタン、または AUX2 ボタンを繰り返し押す。



ボタンを押すたびに、該当バスのイコライザーが「ON」(有効) / 「OFF」(無効) に切り替わります。



ユーザータイプとして Save (保存) する

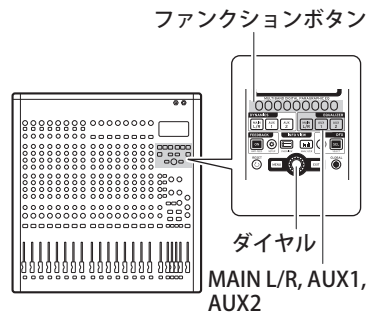
エディット (編集) した DYNAMICS 設定をユーザータイプとして保存し、いつでも呼び出すことができます (最大 10)。

詳しくは「Save (保存) 機能を使う」(27 ページ) をご覧ください。

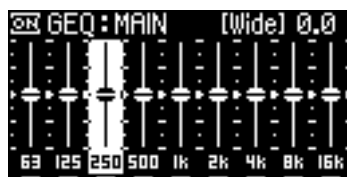
イコライザーを調節する

各バンド（帯域）のゲインや周波数を調節して、音質や音場を整えます。

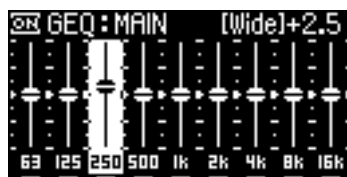
1. EQUALIZER セクションの MAIN L/R ボタン、AUX1 ボタン、または AUX2 ボタンを押して、イコライザー調整を行うバスを選ぶ。



2. ファンクションキーでバンド（周波数）を選ぶ。



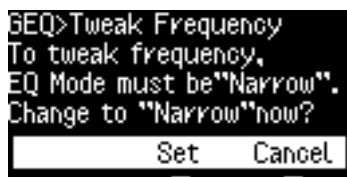
3. ダイヤルを回してレベルを調整する。



HINT

イコライザーのモードを「Narrow」に設定している場合、ダイヤルを押すと、周波数を変更することができます。

（「Wide」の状態ダイヤルを押すと、「Narrow」に切り替えるかどうかのメッセージが表示されます。）



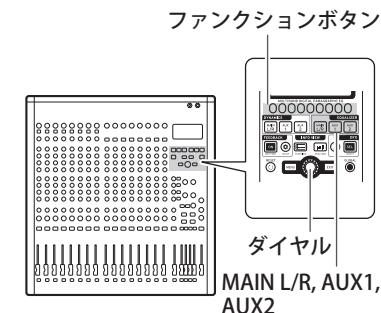
イコライザーのモード

EQUALIZER には特性の異なる 2 つのモードがあります。

Wide（初期値）：各バンドの帯域幅が広く、周波数は固定のモードです。バス全体の音色を調整するのに向いています。

Narrow：各バンドの帯域幅が狭く、周波数が可変のモードです。音場を整えたり、フィードバックを防ぐのに向いています。

1. EQUALIZER セクションの MAIN L/R ボタン、AUX1 ボタン、または AUX2 ボタンを押して、イコライザー帯域幅を設定するバスを選ぶ。



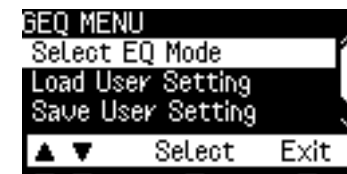
2. MENU ボタンを押す。
イコライザーの設定メニューが表示されます。

3. ダイヤルを回して「Select EQ Mode」を選び、ダイヤルを押す。



HINT

「▲」、「▼」、「Select」と表示されているファンクションボタンでも、メニューの選択/決定ができます。



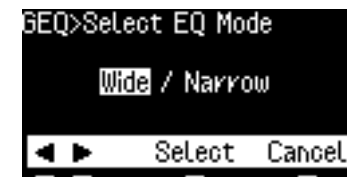
4. ダイヤルを回して「Wide」または「Narrow」を選び、ダイヤルを押す。



HINT

設定を変更せずに1つ前の画面に戻るには、EXIT ボタンまたは「Cancel」と表示されているファンクションボタンを押します。

フィードバックが頻繁に発生する場合、EQUALIZER モードを「Narrow」に設定し、フィードバックを起こしている周波数のレベルを下げてください。



ユーザータイプとして Save (保存) する

エディット (編集) したイコライザーをユーザー設定として保存し、いつでも呼び出すことができます (最大 6)。

詳しくは「Save (保存) 機能を使う」(27 ページ) をご覧ください。

Save (保存) 機能を使う

Save (保存) 機能を使用すると、エフェクトセクションでエディット (編集) した内容を保存することができます。保存した内容は、いつでも呼び出したり、消去したりすることができます。

以下の手順では、例として「EQUALIZER」の画面を使用しています。

エディット (編集) した内容を保存する

エフェクトセクションでエディット (編集) した内容を保存します。

1. 保存したい状態に調節する。

2. MENU ボタンを押す。

設定メニューが表示されます。

3. ダイヤルを回して「Save as User Type」(イコライザーの場合は「Save User Setting」) を選び、ダイヤルを押す。



HINT

「▲」、「▼」、「Select」と表示されているファンクションボタンでも、メニューの選択 / 決定ができます。

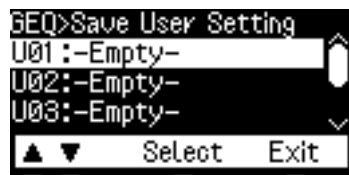


4. ダイヤルを回して保存先の番号を選び、ダイヤルを押す。



HINT

何も保存されていない番号は「Empty」と表示されます。すでに使用されている番号を選んだ場合、新しい内容が上書きされます。

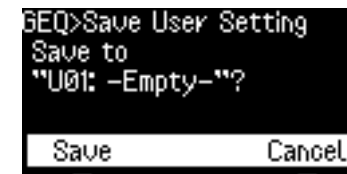


5. 「Save」と表示されているファンクションボタンを押す。



HINT

保存せずに 1 つ前の画面に戻るには、EXIT ボタンまたは「Cancel」と表示されているファンクションボタンを押します。



現在の内容が、指定した番号に保存されます。

保存した内容はいつでも簡単に呼び出すことができます (28 ページ)。

保存した設定内容を読み出す

保存したイコライザー設定を読み出します。

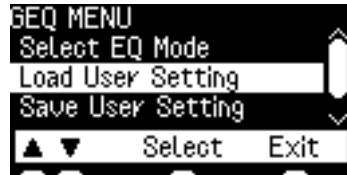


- 保存したエフェクトを読み出す場合は、「エフェクトタイプを選ぶ」(23 ページ) の手順 2 で保存先の番号を選んでください。
- 保存した DYNAMICS 設定を読み出す場合は、「DYNAMICS のタイプを変更する」(24 ページ) の手順 3 で保存先の番号を選んでください。

1. EQUALIZER セクションの MAIN L/R ボタン、AUX1 ボタン、または AUX2 ボタンを押して、イコライザー設定を読み出すバスを選ぶ。

2. MENU ボタンを押す。
設定メニューが表示されます。

3. ダイヤルを回して「Load User Setting」を選び、ダイヤルを押す。



「▲」、「▼」、「Select」と表示されているファンクションボタンでも、メニューの選択/決定ができます。

4. ダイヤルを回して保存先の番号を選び、ダイヤルを押す。



イコライザー設定を読み出さずに 1 つ前の画面に戻るには、EXIT ボタンまたは「Exit」と表示されているファンクションボタンを押します。

読み出したイコライザー設定が選択中のバスに適用されます。

保存した設定内容を消去する

保存されている設定を消去します。

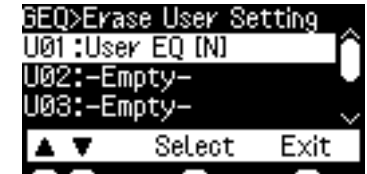
1. MENU ボタンを押す。
設定メニューが表示されます。

2. ダイヤルを回して「Erase User Type」(イコライザーの場合は「Erase User Setting」)を選び、ダイヤルを押す。



「▲」、「▼」、「Select」と表示されているファンクションボタンでも、メニューの選択/決定ができます。

3. ダイヤルを回して設定を消去する番号を選び、ダイヤルを押す。



4. 「Erase」と表示されているファンクションボタンを押す。




消去せずに 1 つ前の画面に戻るには、EXIT ボタンまたは「Cancel」と表示されているファンクションボタンを押します。

選択した番号の設定内容が消去されます。

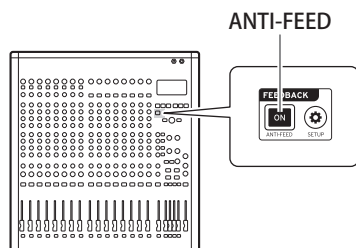
フィードバックサプレッサーを使う

フィードバックサプレッサーを使用すると、ライブなどで突発的に起こる不快なハウリング音を自動的にすばやく解消することができます。

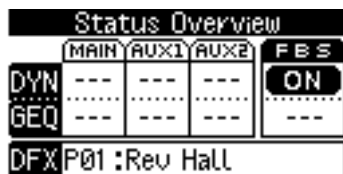
 環境によっては応答が遅くなったり完全に抑制されないことがあります。その場合は、イコライザーを併用すると効果的に抑制できます（25 ページ）。


フィードバックサプレッサーを有効 / 無効にする

1. FEEDBACK セクションの ANTI-FEED ボタンを押す。



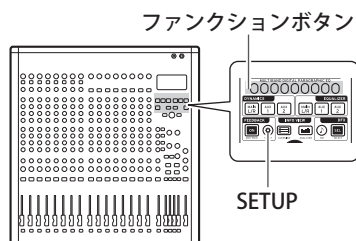
ボタンを押すたびに、フィードバックサプレッサー（FBS）が「ON」（有効） / 「OFF」（無効）に切り替わります。



 「OFF」（無効）にすると、抑制フィルターがリセットされます。


フィードバックサプレッサーを使用するバスを設定する

1. FEEDBACK セクションの SETUP ボタンを押す。
フィードバックサプレッサーの設定画面が表示されます。



2. 「MAIN」、「AUX1」、「AUX2」と表示されているファンクションボタンを押して、「USE」（使用する） / 「OFF」（使用しない）を切り替える。



 すべてのバスを「OFF」にすることはできません。ANTI-FEED ボタンでフィードバックサプレッサーを「OFF」（無効）にしてください。


フィードバックサプレッサーの状態をロックする

フィードバックサプレッサーは、常に音を監視して新たなフィードバックに対処しますが、監視動作だけを停止し、フィルター周波数の設定状態をロックすることができます。

アコースティックライブなど、マイクロフォンや楽器の位置が決まっていて新たなフィードバックが起きにくい環境では、リハーサル後にロックすることで不用意な音の変化を防ぎます。

1. FEEDBACK セクションの SETUP ボタンを押す。
フィードバックサプレッサーの設定画面が表示されます。
2. 「Freq.Lock」と表示されているファンクションボタンを押して、「Locked」（固定する） / 「Unlocked」（固定しない）を切り替える。



 フィードバックサプレッサーを無効にした場合や、本機の電源をオフにした場合は、自動的に「Unlocked」に切り替わります。

GLOBAL メニュー（シーンメモリー、設定、初期化）

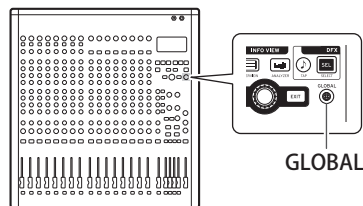
本機の各種設定を変更します。

GLOBAL メニューを操作する

GLOBAL メニューの基本操作を説明します。

以下の手順では、例として「Memorize Mode」の画面を使用しています。

1. GLOBAL ボタンを押す。



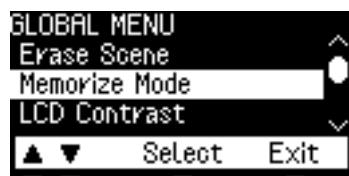
GLOBAL メニューが表示されます。



2. ダイヤルを回してメニュー項目を選び、ダイヤルを押す。



「▲」、「▼」、「Select」と表示されているファンクションボタンでも、メニューの選択 / 決定ができます。

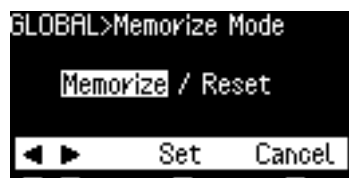


3. ダイヤルを回して設定を選び、ダイヤルを押す。

メニュー項目によっては、ファンクションボタンを使って操作する場合があります。



設定を変更せずに1つ前の画面に戻るには、EXIT ボタンまたは「Cancel」と表示されているファンクションボタンを押します。




GLOBAL メニューの項目

Load Scene	「Save Scene」で登録した設定を呼び出します。
Save Scene	デジタルセクションの設定（ダイナミクスやイコライザーなど）を登録します（最大10種類）。 保存可能なパラメーターについては、「保存可能な設定」（34ページ）をご覧ください。
Erase Scene	「Save Scene」で登録した設定を消去します。
Memorize Mode	本機の電源をオンにしたときに、前回のデジタルセクションの設定（ダイナミクスやイコライザーなど）を維持するかリセットするかを選びます。 Memorize：前回の設定を維持する。 Reset：設定をリセットする。 保存可能なパラメーターについては、「保存可能な設定」（34ページ）をご覧ください。 NOTE 操作後すぐに（10秒程度）電源をオフにすると、設定が記憶されない場合があります。
LCD Contrast	ディスプレイのコントラスト（明暗）を1～9で調節します。
Level Meter Mode	レベルメーターの表示速度を設定します。 Normal Slow：ゆるやかにメーターが動作する。 Normal Fast：素早くメーターが動作する。 Peak Slow：ピークホールドを表示して、ゆるやかにメーターが動作する。 Peak Fast：ピークホールドを表示して、素早くメーターが動作する。
Analyzer Mode	スペクトラムアナライザーの表示速度を設定します。 Normal Slow：ゆるやかにメーターが動作する。 Normal Fast：素早くメーターが動作する。 Peak Slow：ピークホールドを表示して、ゆるやかにメーターが動作する。 Peak Fast：ピークホールドを表示して、素早くメーターが動作する。
Reset to Default	デジタルセクションのパネル設定を初期状態にします。 （各エフェクトのユーザーメモリーとシーンメモリーは消去されません。）

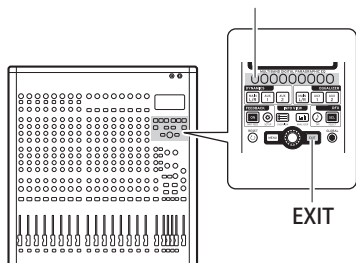
Clear User Memory	各エフェクトのユーザーメモリーとシーンメモリーをすべて消去します。
Factory Reset	本機を工場出荷時の状態に戻します。メモリーはすべて消去されます。
System Update	本機のシステムアップデートを実行します。 アップデートは、コルグのウェブサイトからダウンロードできます。アップデートの手順など、詳しくはアップデート同梱のドキュメントをご覧ください。

工場出荷時の状態に戻す (Factory Reset)

本機を工場出荷時の状態に戻すには、GLOBAL メニュー (30 ページ) から「Factory Reset」を実行してください。

 ファンクションボタン (一番左) と EXIT ボタンを同時に押しながら、POWER スイッチをオン (ON) にする方法でも、本機を工場出荷時に戻せます。

ファンクションボタン (一番左)



こまったときは

ご使用中に本機が正常に動作しなくなった場合は、下記の項目をご確認ください。
対処しても直らない場合や、ここに記載されていない異常がある場合は、電源コードをコンセントから抜き、コルグお客様相談窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	発電機やスイッチ付電源タップに本機を接続していて、元の電源が切られている。	発電機やスイッチ付電源タップの電源を入れてください。
音が出ない。	外部機器（楽器、マイクロフォンなど）が正しく接続されていない。	外部機器との接続をご確認ください。
	外部機器（楽器、マイクロフォンなど）との接続に使用しているケーブルがショートや断線している。	外部機器との接続をご確認ください。必要に応じてケーブルを交換してください。
	ゲインやフェーダーが適切に調節されていない。	該当チャンネルの GAIN ノブやチャンネルフェーダー、SUB GROUP MASTER フェーダー、MAIN MIX (L/R) フェーダーで各レベルを調節してください。
	該当チャンネルの出力が無効になっている。	該当チャンネルの MUTE ボタンやバスアサインスイッチ、MUTE GROUP ボタン、BREAK ボタンなどの状態をご確認ください。
AUX OUT 出力端子から音が出ない。	AUX1 ~ 4 バスの信号レベルが適切に調節されていない。	該当チャンネルの AUX (1 ~ 4) SEND ノブで信号レベルを調節してください。
PHONES 端子と MONITOR OUT 端子から音が出ない。	該当バスの AFL 機能が無効になっている。	該当バスの AFL スイッチで AFL 機能を有効にしてください。
	使用していないチャンネルの PFL 機能が有効になっている。	該当チャンネルの PFL スイッチで PFL 機能を無効にしてください。

音が極端に小さい、または歪んだり雑音が生じたりする。	ゲインやフェーダーが適切に調節されていない。	該当チャンネルの GAIN ノブやチャンネルフェーダー、SUB GROUP MASTER フェーダー、MAIN MIX (L/R) フェーダーで各レベルを調節してください。
	本機に接続した外部機器の出力レベルが適切でない。	外部機器の出力レベルを調節してください。
	コンプレッサーやエフェクトがかかり過ぎている。	該当チャンネルの COMP ノブや FX SEND ノブで各効果を調節してください。
音が揺れる。	同一チャンネルの XLR 端子とフォーン端子の両方に外部機器を接続している。	両方の端子に外部機器を接続しないでください。いずれかの一方の端子のみをご利用ください。
	ファンタム電源がオフの状態、コンデンサーマイクを使用している。	48V MIC PHANTOM スイッチをオンにしてください。
音が揺れる。	コンプレッサーがかかり過ぎている。	該当チャンネルの COMP ノブで圧縮効果を調節してください。
ステレオ音声の左 / 右の音量がばらつく。	音量バランス（左 / 右）が適切に調節されていない。	該当チャンネルの PAN ノブで音量バランスを調節してください。
	外部機器との接続に使用しているケーブルが左 / 右で異なっている。	外部機器と接続するときは、左 / 右で同じケーブルをご使用ください。
レベルメーターが機能しない。	使用していないチャンネルの PFL 機能が有効になっている。	該当チャンネルの PFL スイッチで PFL 機能を無効にしてください。
iPhone/iPad の音が出力されない。	iPhone/iPad の充電が不足している。	iPhone/iPad を充電してから再度実行してください。
	USB 端子に接続した iPhone/iPad が本機に対応していない。	本機に対応している iPhone/iPad (39 ページ) をご利用ください。

資料

エフェクト一覧とメモリー

エフェクト一覧

DYN (ダイナミクス)

タイプ	内容	パラメーター / 効果
P01: Limiter	過大入力を抑えます。	
P02: Comp Hard P03: Comp Soft	大きなレベルを抑えて、小さなレベルを持ち上げることで、音の粒立ちを揃えて、音圧を上げます。 「Comp Hard」は強め、「Comp Soft」は弱めに効果が掛かります。	Attack: 圧縮するまでの時間 Sens: 動作感度
P04: NsGate Hard P05: NsGate Soft	入力音が小さいときに出力を絞ってノイズを軽減します。 「NsGate Hard」は強め、「NsGate Soft」は弱めに効果が掛かります。	Release: 出力を絞るまでの時間 Sens: 感度 (ノイズとみなす閾値)

GEQ (グラフィックイコライザー)

モード	内容
Wide (初期値)	ベーシックなワイド型のグラフィックイコライザーです。 各バンドの帯域が広いので、9バンドで全周波数帯域をカバーでき、音色全体の調整をするのに適しています。 各バンドの周波数は固定です。
Narrow	ハイクラスな 1/3oct 型のグラフィックイコライザーです。 各バンドの帯域が狭いため、ライブ会場の音色の微調整やハウリングマージンの調整をすることができます。 9バンドはすべて周波数が可変で、ラック型 EQ で標準的な 31band ステップの周波数から選択することができます。

DFX (デジタルエフェクト)

タイプ	内容	パラメーター / 効果
P01: Rev Hall P02: Rev Hall Warm	ホールの残響が得られます。 「Rev Hall Warm」は温かみのあるトーンになります。	
P03: Rev Room P04: Rev Room Warm	小規模な部屋の残響が得られます。 「Rev Room Warm」は温かみのあるトーンになります。	
P05: Rev Vocal P06: Rev Vocal Warm	ボーカル向けの残響が得られます。 「Rev Vocal Warm」は温かみのあるトーンになります。	Time: 残響の持続時間 HiDamp: 残響音の高域減衰量
P07: Rev Stage P08: Rev Stage Warm	中規模ステージの残響が得られます。 「Rev Stage Warm」は温かみのあるトーンになります。	
P09: Rev Plate P10: Rev Plate Warm	プレートリバーブの残響が得られます。 「Rev Plate Warm」は温かみのあるトーンになります。	
P11: Rev Spring P12: Rev Spring Warm	ギターアンプなどに内蔵されているスプリングリバーブの特徴的な残響が得られます。 「Rev Spring Warm」は温かみのあるトーンになります。	Time: 残響の持続時間 Sway: スプリングの揺れ具合
P13: Delay Analog	遅延させた音を付加します。ウォームなトーンのアナログディレイをモデリングしています。	
P14: Tape Echo	遅延させた音を付加します。ウォームとクリアを兼ね備えたテープエコーをモデリングしています。	Time: 遅延の時間 Feedback: 遅延音の繰り返し量
P15: Delay Standard	遅延させた音を付加します。	
P16: Delay SDD3000	遅延させた音を付加します。コルグのデジタルディレイ SDD3000 のサウンドをモデリングした、クリアなディレイサウンドです。	

タイプ	内容	パラメーター / 効果
P17: Chorus	ピッチ（音程）が周期的に揺らぐようにした音を原音に付加して厚みを出します。 「Speed」が遅いときはユニゾン（二重奏）風、速いときはビブラートの効果になります。	Speed: 揺らぎ（うねり）の速さ Depth: 変調の深さ
P18: Flanger	ジェット機が上空を通り過ぎるときのような、うねりの効果が得られます。	
P19: Exciter	高域を強調して、きらびやかなサウンドにします。	Tone: 強調する音域（周波数）
P20: Sub Bass	バスドラムなど低音域の音に対して、その音を補強する Sub Bass 音を付加します。	Sens: 入力に追従する感度 Decay: Sub Bass 音の減衰の度合い
P21: Sine 1kHz	テスト信号（1kHz サイン波）です。	Level: 信号のレベル
P22: Sweep Slow	テスト信号（スイープサイン波）です。	不用意な発音を防ぐため、このタイプを選択時には初期値の「-INF」（無音）に設定されます。
P23: Sweep Fast	「Sweep Slow」は変化が遅く、「Sweep Fast」は変化が速くなります。	
P24: Noise	テスト信号（ホワイト/ピンクノイズ）です。	Color: ノイズの種類 Level: 信号のレベル 不用意な発音を防ぐため、このタイプを選択時には初期値の「-INF」（無音）に設定されます。

メモリー一覧

セクション	メモリー番号	タイプ
DYN (DYNAMICS)	U01 ~ U10	ユーザータイプ (MAIN、AUX1、AUX2 共用です)
GEQ (Graphic EQ)	U01 ~ U06	ユーザーセッティング (MAIN、AUX1、AUX2 共用です)
DFX	U01 ~ U30	ユーザータイプ
GLOBAL	U01 ~ U10	シーンメモリー

保存可能な設定

GLOBAL メニューの「Save Scene」および「Memorize Mode」では、以下の設定が保存されます。

- MUTE（消音）の有効/無効：各チャンネルの MUTE、FX MUTE、MUTE GROUP、BREAK
- MUTE GROUP のプログラム内容
- DYN、GEQ、DFX の各種設定：ON/OFF、タイプ、パラメーター
- FEEDBACK の設定：対象バス
- 現在の画面表示

端子 / コネクタの種類と接続

本機はバランス接続とアンバランス接続に対応しています。

外部ノイズの少ない環境で楽器（ギターやベースなど）を本機に接続する場合は、アンバランス接続で問題ありません。

出力が小さい機器（マイクロフォンなど）を本機に接続する場合など、外部ノイズの影響を受けやすい環境では、バランス接続をご利用ください。

XLR 端子

XLR バランスケーブルを使って、バランス信号を伝送します。外部ノイズに強く、主にマイクロフォンやプロオーディオ機器の接続に使用します。

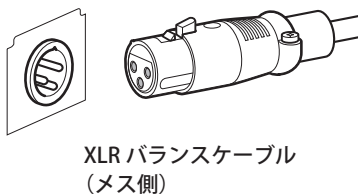
XLR 入力端子

端子のピン穴に合わせて、XLR バランスケーブル（オス側）を接続します。



XLR 出力端子

端子のピンに合わせて、XLR バランスケーブル（メス側）を接続します。



本機の XLR 端子のピン配列は右図のとおりです。機器を接続する前に、該当機器のピン配列をご確認ください。

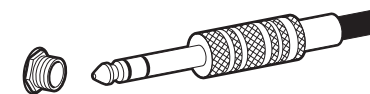


フォーン端子

フォーン端子には 3 端子（TRS）と 2 端子（TS）があります。

フォーン端子（TRS）

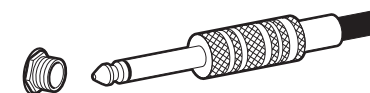
モノラルのバランス信号、またはステレオのアンバランス信号を伝送します。



フォーンケーブル（TRS）

フォーン端子（TS）

モノラルのアンバランス信号を伝送します。



フォーンケーブル（TS）

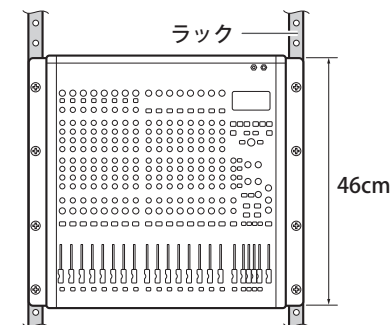
ラックマウント (MW-2408 のみ)

コルグ製のミキサー専用ブラケット (別売: MW-2408 専用) を使って、本機をラックに取り付けます。

EIA 規格の 19 インチ標準ラックに取り付けてください。

ラックに取り付けるには、最低 12U (約 533mm) のスペースが必要です。背面にケーブルを接続するための空間を考慮すると、14U (約 623mm) のスペースを確保することをおすすめします。取り付け作業を始める前に、ケーブルの配線や放熱を考慮して、スペースを確認してください。

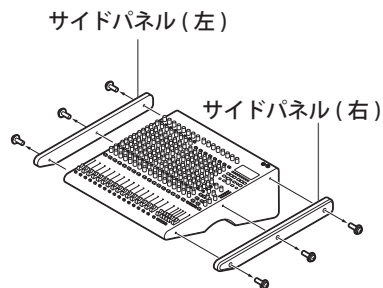
3. ラックに設置する。



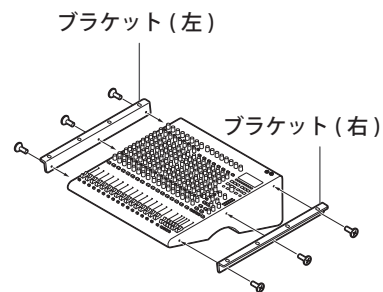
警告

- ラックへの取付作業は必ず大人 2 名以上で行ってください。
- 本機に熱がこもらないように、周囲に通気するのに十分なスペースを確保してください (10cm 以上)。ラックに他の機器も取り付ける場合は、本機との間隔を 1U 以上空けて設置してください。
熱がこもると故障や火災の原因になります。
- 本機をラックに設置する際は、本機からケーブルをすべて取り外してください。
ケーブルで転倒したり、周囲の機器が落下して感電、故障の原因になります。

1. ドライバーを使って、本機側面のネジ (6 箇所) を取り外し、左右のサイドパネルを取り外す。



2. ブラケット付属のネジを使って、左右のブラケットを本機に取り付ける。



注意

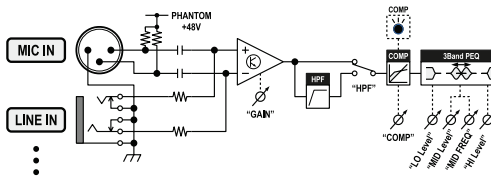
必ずブラケット付属のネジで、しっかりと本機に固定してください。
それ以外のネジを使うと、しっかりと固定できずに落下してけがや故障の原因になります。

ブロック/レベルダイアグラム

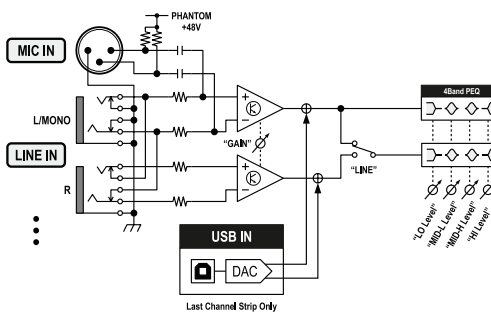
Block/Level Diagram

MW-1608 / MW-2408

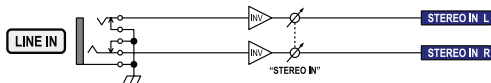
MONO CH IN MW-1608/2408 : 1-8ch



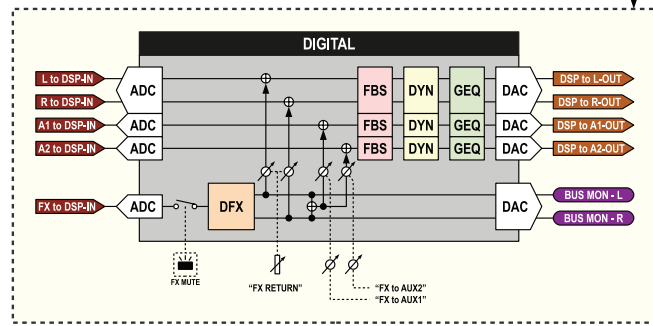
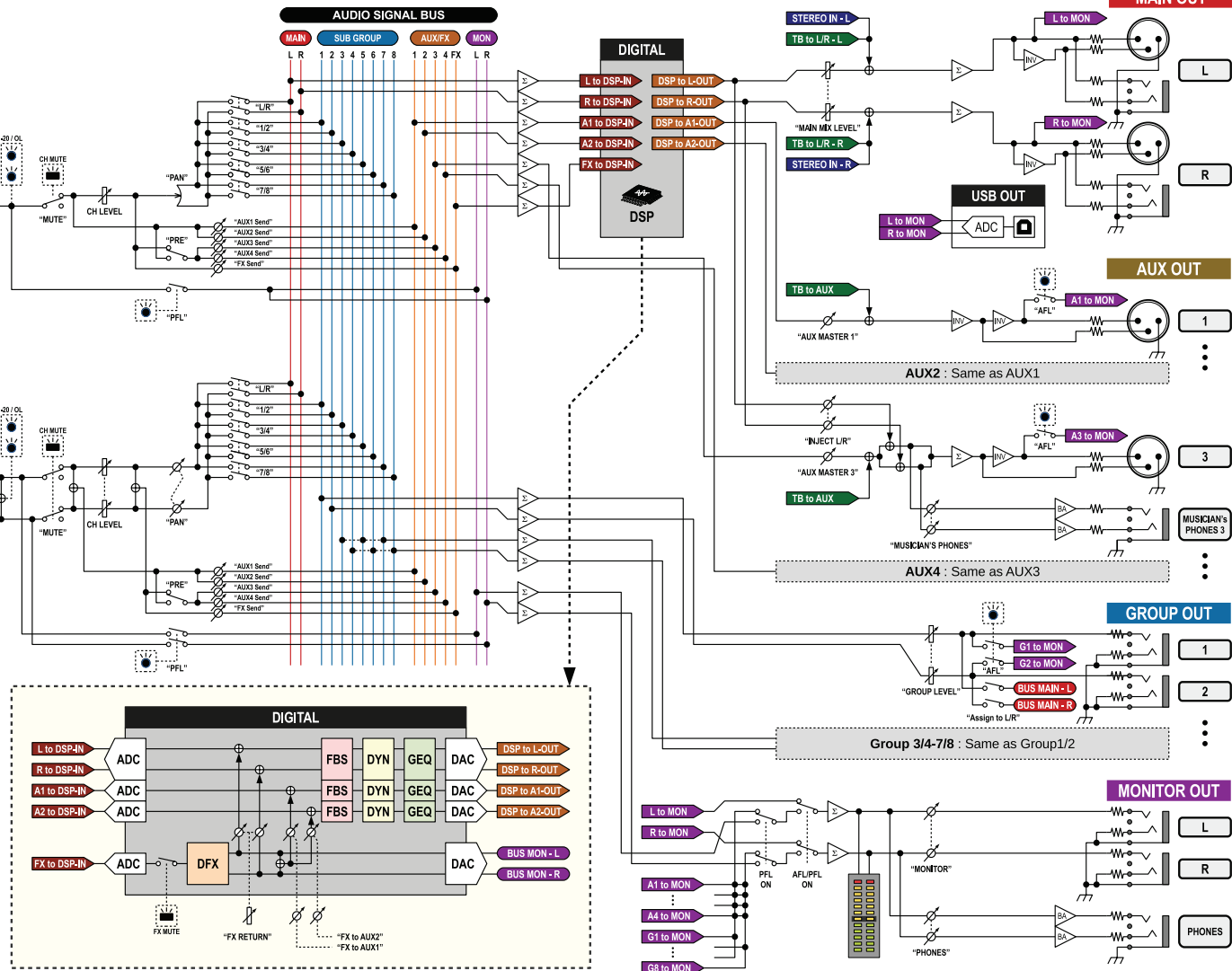
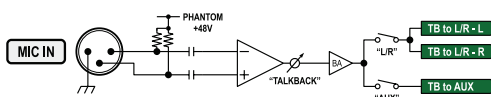
STEREO CH IN MW-1608 : 9/10 - 15/16ch MW-2408 : 9/10 - 23/24ch



STEREO IN MW-1608 : 17/18ch MW-2408 : 25/26ch



TALKBACK IN



仕様

電気的特性 (入出力仕様)

アナログ 入力仕様	インピーダンス		入力レベル		端子仕様
	入力	適合 ソース	規定 レベル	最大 レベル	
MIC IN (チャンネル)	3k Ω	50 ~ 600 Ω	-10 ~ -60dBu	+12 ~ -38dBu	形状：XLR-3-31 伝送：モノラル (バランス)
LINE IN (チャンネル)	30k Ω	600 Ω	+10 ~ -40dBu	+32 ~ -18dBu	形状：6.3mm フォーンジャック (TRS) 伝送：モノラル (バランス)
MIC IN (TALKBACK)	1.1k Ω	50 ~ 600 Ω	-55dBu	-18dBu	形状：XLR-3-31 伝送：モノラル (バランス)
STEREO IN	2k Ω	600 Ω	-	-3dBV	形状：3.5mm フォーンジャック (TRS) 伝送：ステレオ (アンバランス)

アナログ 出力仕様	インピーダンス		出力レベル		端子仕様
	出力	適合負荷	規定	最大	
MAIN OUT	75 Ω	600 Ω	+4dBu	+26dBu	形状：XLR-3-32、6.3mm フォーンジャック (TRS) 伝送：モノラル (バランス)
SUB GROUP OUT	75 Ω	10k Ω	+4dBu	+22dBu	形状：6.3mm フォーンジャック (TRS) 伝送：モノラル (インピーダンスバランス)
MONITOR OUT	75 Ω	10k Ω	+4dBu	+22dBu	形状：6.3mm フォーンジャック (TRS) 伝送：モノラル (インピーダンスバランス)
PHONES OUT	110 Ω	32 Ω	-	100mW @32 Ω	形状：6.3mm フォーンジャック (TRS) 伝送：ステレオ (アンバランス)
AUX OUT	75 Ω	600 Ω	+4dBu	+26dBu	形状：XLR-3-32 伝送：モノラル (バランス)
MUSICIAN'S PHONES OUT	110 Ω	32 Ω	-	100mW @32 Ω	形状：6.3mm フォーンジャック (TRS) 伝送：ステレオ (アンバランス)

デジタル入出力仕様	適合規格	オーディオフォーマット	端子仕様
USB IN/OUT	USB Audio Class 1.0	44.1/48kHz、 16/24bit、ステレオ	形状：USB Type-B 通信：USB2.0

一般仕様

オーディオ特性			
周波数特性	20Hz ~ 20kHz	+0.5/-1.5dB	ノミナル出力、1kHz 基準
全高調波歪率 (THD + N)	MAIN OUT	0.004%	1kHz +24dBu、GAIN= 最小
ノイズ (A-weight)	入力換算ノイズ	INPUT to MAIN OUT	-128dBu MIC IN、GAIN= 最大
		残留ノイズ	MAIN OUT
	SUB GROUP OUT		-102dBu
	AUX OUT		-93dBu マスターノブ：最小
	バスノイズ	MAIN OUT	-80dBu マスターフェーダー：ノミナル
		SUB GROUP OUT	-90dBu バスアサインスイッチ：オフ
AUX OUT		-76dBu マスターノブ：ノミナル AUX SEND ノブ：最小	
クロストーク	入出力間 (MAIN L/R)	-70dB	1kHz、Bandpass Filter
	隣接入力チャンネルストリップ間	-95dB	1kHz、Bandpass Filter

オーディオ系統数			
入力	チャンネル	モノラルストリップ	8 系統 (8ch)
		ステレオストリップ	MW-2408 : 8 系統 (16ch) MW-1608 : 4 系統 (8ch)
	補助入力	STEREO IN	1 系統 (2ch)
		TALKBACK	1 系統
内部バス		MAIN	2ch
		SUB GROUP	8ch
		AUX	4ch
		FX	1ch
		MONITOR	2ch
出力	ライン	MAIN	2ch
		SUB GROUP	8ch
		AUX	4ch
		MONITOR	2ch
	ヘッドフォン	MUSICIAN'S PHONES	2 系統
		PHONES	1 系統
USB		USB IN	1 系統 (2ch)
		USB OUT	1 系統 (2ch)

デジタルエフェクト		
バスエフェクト	DYNAMICS	独立3系統 ダイナミクスエフェクト - Type: リミッター、コンプレッサー、ノイズゲート - Memory: 5 プリセットタイプ、10 ユーザータイプ
	EQUALIZER	独立3系統 パラグラフィックイコライザー - Mode: ワイド (周波数固定)、ナロー (周波数可変) - Memory: 6 ユーザーセッティング
マスターエフェクト	DFX	マスターエフェクト - Type: リバース、ディレイ、モジュレーション、テスト信号 - Memory: 24 プリセットタイプ、30 ユーザータイプ

チャンネル機能						
HPF	※モノラルのみ	80Hz、12dB/oct				
COMP	※モノラルのみ	ゲイン/スレッシュホールド連動タイプ、COMP インジケーター				
EQ	3バンド ※モノラルのみ	バンド	タイプ	周波数	ゲイン	
		HIGH	Shelving	12kHz	± 15dB	
		MID	Peaking	250Hz ~ 5kHz		
		LO	Shelving	100Hz		
		4バンド ※ステレオのみ	バンド	タイプ	周波数	ゲイン
			HIGH	Shelving	12kHz	± 15dB
	MID (H)		Peaking	2.5kHz		
	MID (L)		Peaking	250Hz		
	LO	Shelving	100Hz			
	シグナルインジケーター	-20	チャンネル内のレベルが規定レベルの -20dB に達すると点灯			
OL		チャンネル内のレベルがクリップレベルの 3dB 手前に達すると点灯				
チャンネルミュート		電子制御アナログミュート (プログラマブル)				

マスター機能 / システム機能		
シグナルモニター	レベルメーター	2列 x 12 ポイント LED、Peak Hold 機能 レベル: OL、15、12、9、6、3、0、-3、-6、-9、-12、-15
	ANALYZER	24 バンド スペクトラムアナライザー、Peak Hold 機能
フィードバックサプレッサー		3系統 高速フィードバックサプレッサー バス選択機能、動作ロック機能
ミュートコントロール	MUTE GROUP	プログラマブルミュートグループ メモリー: 4 ミュートグループ
	BREAK	インプット セクションの全バス経路を遮断 ※ MONITOR (PFL) 経路を除く
シーンメモリー		デジタルセクション および ミュートの設定を保存、呼出しメモリー: 10 ユーザーシーン

電源	
定格入力電圧	AC100 ~ 240V、50/60Hz
最大消費電力	45W
ファンタム電源	+48V

寸法 / 質量		
寸法 ※突起物を除く	MW-2408	W480mm x H187mm x D530mm ※側板を除く本体幅は 440mm
	MW-1608	W396mm x H187mm x D530mm ※側板を除く本体幅は 356mm
質量	MW-2408	9.3kg
	MW-1608	8.0kg

環境	
動作温度範囲	0 ~ 40°C

付属品 / オプション		
付属品		電源コード、取扱説明書（クイックスタートガイド）、iZotope RX Elements ライセンスカード
オプション	ラックマウント金具	MW-001 (MW-2408 のみ)
	フットスイッチ	ペダルスイッチ PS-1、PS-3



NOTE

製品の仕様および外観は予告なく変更することがあります。

KORG INC.

4015-2 Yanokuchi, Inagi-City, Tokyo 206-0812 Japan

© 2020 KORG INC.

www.korg.com